

平成31年度展覧会

展覧会の方針

わが国における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の3万5千点にのぼる写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

(1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年テーマを設定して100%収蔵品で構成するコレクション展。今年度は「TOPコレクション イメージを読む」をテーマに、作品という視覚的なイメージとその読み解き方を考え、2期にわたって「場所をめぐる4つの物語」「写真の時間」を展開し、各図録を出版した。

(2) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

生誕120年を記念して開催した「山沢栄子 私の現代」展では、1970-80年代に手がけた抽象写真シリーズを中心に、関連資料を多数紹介し、独自の芸術表現に到達した作家の歩みを辿り、同名の図録を一般書籍として赤々舎より出版した。

また、日本における写真文化を紹介するため、毎春、初期写真に焦点を当てた展覧会を開催している。「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」を開催。同展では、幕末明治の写真文化に着目し、関東地方の豊かな作品群や作家の誕生を、歴史や地域の特徴を際立たせ、同名の図録を出版した。

(3) 旬な作家のミッド・キャリア展

東京都写真美術館第二期重点収集作家で、国内外で発表を続ける宮本隆司の個展「宮本隆司 いまだ見えざるところ」を開催した。建築空間を題材とした都市の変容、崩壊の光景を独自の視点で撮影した作品で広く知られる作家の代表作に加え、近作である奄美群島・徳之島でのアート・プロジェクトを展覧し、同名の図録を一般書籍として平凡社より出版した。

また、第一期重点収集作家である白川義員の個展を二期に分けて紹介した。第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、崇高で美しい日本の自然を紹介、第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、50年以上にわたり撮り続けてきた作品群の中から「天地創造」のイメージに合致する作品を一挙放出し、最新のデジタル技術とかつてないスケール感で再現した。

(4) 映像展

日本・ポーランド国交樹立100周年を記念して、東欧の文化大国ポーランドの1970年代以降の美術を、女性作家と映像表現のあり

方に注目して紹介する「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像」を開催した。同展では、ポーランド国内外の研究者やキュレーター、関係機関との連携交流を通じて、ポーランドの1970年代からの美術の歩みを、その時代背景をふまえながら新たな視点で読み解き、同名の図録を出版した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

(1) 日本を代表する自然写真家個展

カワセミ類の写真を中心に鳥獣の写真家として国際的に評価の高い嶋田忠の個展「野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」を開催した。作家の40年にわたる創作活動を概観するとともに、「世界最古の熱帯雨林」といわれるニューギニア島を舞台に、不思議な生態と華麗な姿で人々を魅了する貴重な野生動物たちを多数紹介し、同名の図録を刊行した。

(2) 国際展

「イメージの洞窟 意識の源を探る」では、「洞窟」をモチーフや暗喩にした写真や動画の作品から、イメージや意識の作り方を再考しようとする展覧会で、写真発明以前、19世紀初頭に光学機器を用いて描いた貴重なドローイングや、オサム・ジェームス・中川、北野謙、志賀理江子、フィオナ・タン、ゲルハルト・リヒターなどの作品で「像・イメージ」の概念を捉えなおした。

(3) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第16回となる本展は「至近距離の宇宙」をテーマに掲げ、ごく身近な身の回りに深遠な宇宙を見出す6名の作家を紹介し、同名の図録を出版した。

(4) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

1990年代に入り、ファッション写真という枠組みを超えて、人々に訴えかけるイメージを作り出す写真家や、インディペンデントなスタンスで情報を発信する作品やファッション誌が登場し、多くの人々の考え方やライフスタイルにも影響を与えてきた。「写真とファッション」展は、それらの活動に注目し、国内外で活躍する6組のアーティストたちの作品を通じて1990年代以降の写真とファッションの関係性をさぐり、同名の図録を出版した。

(5) 恵比寿映像祭

「Tokyo Tokyo Festival」の基幹事業である恵比寿映像祭。第12回となる今回は、「時間を想像する」を総合テーマに、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、野外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント等、多彩なプログラムを実現した。

◇誘致展

写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にバリエーションをもたらした。

※「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」「白川義員写真展 永遠の日本/天地創造」「写真とファッション」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から臨時休館となった。

志賀理江子

ヒューマン・スプリング

SHIGA Lieko: Human Spring

期間：平成31年3月5日（火）～令和元年5月6日（月・振休）32日間（平成31年4月1日以降の開館日数）
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
／東京新聞
協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／
凸版印刷株式会社
協力：株式会社カラーサイエンスラボ／石堂建設株式会社

独自のフィールドワークを元に制作する作品群で、日本国内のみならず、国際的な注目を集める写真家・志賀理江子の新作個展「ヒューマン・スプリング」を開催。2006年、作家は展覧会参加のため初めて東北を訪れた。その後2008年から宮城県に移住し、その地に暮らす人々と出会いながら作品を制作する生活のなかで、長く厳しい冬を打ち破るような東北の春に惹かれていく。変わりゆく季節から溢れ出る強烈な生のエネルギーが、同時に死を抱え込んでいることに共感した作家は、人間が絶えず多様なイメージを求め続ける理由の源をそこに見出し、深く追求していくようになる。それが人間社会とどのように関わり、繋がっているのかを知ろうとしていたのである。そして2011年3月、東日本大震災に遭い、多くの人々の命が一瞬で奪われるという壮絶な光景を目の当たりにした作家の心に、この体験が深く刻み込まれた。時空の裂け目に飛び込み、何かを探るような志賀理江子の写真表現は、自らの衝動と重なるものといえるだろう。本展覧会は、現代を生きる私たちの心の奥に潜む衝動や本能に焦点をあて、日本各地のさまざまな年代、職業の人々とともに協働し制作した新作を等身大を超えるスケールの写真インスタレーションで構成した。

出品点数：100点
入場者数：16,961人（平成31年3月5日～令和元年5月6日）
企画：丹羽晴美

展覧会図録

『志賀理江子 ヒューマン・スプリング』
執筆者：対談収録・志賀理江子×小原真史、丹羽晴美
編集・発行：東京都写真美術館



宮本隆司 いまだ見えざるところ

MIYAMOTO Ryuji: Invisible Land

期間：令和元年5月14日（火）～7月15日（月・祝）55日間
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
／朝日新聞社
特別協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社

現在も国内外の美術展などで発表を続ける宮本隆司の個展。宮本隆司は、建築空間を題材にした都市の変容、崩壊の光景を独自の視点で撮影した作品によって広く知られる、近年は、両親の故郷である奄美群島・徳之島でアートプロジェクトを企画、運営するなど、その活動は新たな展開を見せていた。展示内容は初期の作品から、アジアの辺境や都市を旅して撮影した写真や、徳之島で取り組んだピンホール作品、ポートレートなどを展示した。

主な出品シリーズ：「建築の黙示録」、「ロー・マントン1996」、「東方の市」、「塔と柱」、「徳之島ポートレート」、「ソテツ」、「面縄ピンホール2013」など

出品点数：112点
入場者数：13,862人
企画：藤村里美

展覧会図録

『宮本隆司 いまだ見えざるところ』
執筆者：倉石信乃、キャリー・クッシュマン、藤村里美
編集：蟹沢格
発行：平凡社



TOPコレクション イメージを読む

場所をめぐる4つの物語

TOP Collection: Reading Images

The Stories of Four Places

期間：令和元年5月14日（火）～8月4日（水）72日間

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
協賛：凸版印刷株式会社

東京都写真美術館の収蔵作品を2期にわたって紹介するTOPコレクション展の第1期。「イメージを読む」を今年度のテーマとした。作品の物語性に着目し、個々の作品の背後にある意味やお互いを結びつける関連性を浮き上がらせる狙いから、本展では4作家による4つのシリーズ作品の魅力を探った。

W.ユージン・スミス〈カントリー・ドクター〉、奈良原一高〈人間の土地 緑なき大地 軍艦島〉、内藤正敏〈出羽三山〉、山崎博〈10 POINTS HELIOGRAPHY〉のそれぞれの作品において、作家たちはあるひとつの場所・地域を深く見つめた。その場所に固有の生活や風景、出来事をとらえるだけではなく、現実的な事象からさらにその向こう側にある隠された物事の本質や普遍的な意味をとらえ、写真やテキストの形で作品は構成されている。本展では「場所」と密接にかかわった、これら4つのアプローチを取り上げ、そこから生まれる物語的な世界の広がりをたどった。

出品作家：W.ユージン・スミス、奈良原一高、内藤正敏、山崎博

出品点数：133点

入場者数：20,678人

企画：石田哲朗

展覧会図録

『TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語』

執筆者：石田哲朗

編集：石田哲朗、伊藤貴弘、樹田言葉

発行：東京都写真美術館



TOPコレクション イメージを読む

写真の時間

TOP Collection: Reading Images

The Time of Photography

期間：令和元年8月10日（土）～11月4日（月・振休）73日間 ※台風19

号接近に伴い2日間臨時休館

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
協賛：凸版印刷株式会社

「イメージを読む」をテーマに掲げたTOPコレクション展の第2期。本展では「時間」をキーワードに、35,000点を超えるTOPコレクションの中から写真作品に焦点を絞り、古今東西の名品を取り上げつつ、19世紀の初期写真から現代までの表現を幅広く紹介した。「制作の時間」、「イメージの時間」、「鑑賞の時間」の三章構成として、個々の作品がいかに時間を内包しているかを考察することで、それぞれの作家が、どのようなアプローチでもって写真というメディアと対峙し続けてきたかに光を当ててを試みた。

出品作家：伊藤義彦、内田九一、川内倫子、鬼海弘雄、小島康敬、佐藤時啓、杉本博司、田口和奈、土田ヒロミ、東松照明、中平卓馬、奈良原一高、畠山直哉、濱谷浩、堀与兵衛、緑川洋一、森山大道、米田知子、ウジェーヌ・アジェ、ロバート・キャパ、ハリー・キャラハン、ウィリアム・クライン、アウグスト・ザンダー、シンディ・シャーマン、エドワード・スタイケン、W.ユージン・スミス、エドゥアール＝ドニ・バルデュス、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、フェリーチェ・ベアト、ドゥエイン・マイケルズ、シャルル・マルヴィル、ジョナス・メカス、エドワード・ルシェ、NASA

出品点数：110点

入場者数：24,308人

企画：樹田言葉

展覧会図録

『TOPコレクション イメージを読む 写真の時間』

執筆者：樹田言葉、石田哲朗、三井圭司、伊藤貴弘

編集：樹田言葉、伊藤貴弘

発行：東京都写真美術館



しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像：1970年代から現在へ

Her Own Way Female Artists and the Moving Image in Art in Poland: From 1970s to the Present

期間：令和元年8月14日（水）～10月14日（月・祝）52日間 ※台風19号接近に伴い2日間休館
会場：地下1階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社
特別協力：アダム・ミツケヴィッチ・インスティテュート／Culture.pl
後援：ポーランド広報文化センター
協賛：凸版印刷株式会社

日本ポーランド国交樹立100周年を機に、ポーランド共和国政府文化機関の特別協力を得て開催。数年にわたる交流とリサーチをもとに、社会主義政権下から現在に至る、ポーランドの同時代美術の流れを女性アーティストと映像に焦点を当てて紹介した。第1章は、マリカ・クジミチ氏との共同により、近年再評価が進んでいる1970-80年代の先駆的な世代の映像作品を紹介。第2章は、民主化以降の動向を世代ごとに3部構成でたどった。約半世紀にわたるポーランド社会と映像表現の変化を体感できるよう展示の緩急に工夫するとともに、出品リストを兼ねた鑑賞ガイドを配布し来場者の理解を助けた。会期中、作家やキュレーターが複数来日し、トークやレクチャーを多数開催。あわせて論文4本、作家解説・略歴、用語一覧等を整えた図録を刊行した。

出品作家：24組25名
出品点数：30点
入場者数：11,502人
企画：岡村恵子

展覧会図録

『しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像：1970年代から現在へ Her Own Way Female Artists and the Moving Image in Art in Poland: From 1970s to the Present』
執筆者：マリカ・クジミチ、アンダ・ロッテンベルク、アグニェシュカ・レイザヘル、岡村恵子
編集・発行：東京都写真美術館



山沢栄子 私の現代

Eiko Yamazawa: What I Am Doing

期間：令和元年11月12日（火）～令和2年1月26日（日）63日間
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
特別協力：大阪中之島美術館準備室／西宮市大谷記念美術館

女性写真家のパイオニア、山沢栄子（1899-1995）の大規模回顧展。1920年代のアメリカで写真を学び、1930年代から半世紀以上にわたり活躍した山沢は、当初はポートレートの撮影を主な仕事としていたが、晩年の1980年代には抽象絵画のような写真作品を制作する。本展では、1970-80年代に手がけたカラーとモノクロによる抽象写真シリーズ〈What I Am Doing〉を中心に、抽象表現の原点を示す1960年代の写真集、戦前の活動を伝えるポートレートや関連資料などを展示し、写真による造形の実験を重ねることで、独自の芸術表現に到達した作家の歩みを辿る。また、TOPコレクションから、アルフレッド・スティューグリッツやポール・ストランドらの作品も加え、20世紀前半のアメリカ近代写真の状況と山沢への影響を検証した。

出品点数：140点（関連資料10点）
入場者数：19,849人
企画：池上司（西宮市大谷記念美術館）、鈴木佳子

展覧会図録

『山沢栄子 私の現代』
執筆者：池上司、鈴木佳子
編集：池上司、鈴木佳子
発行：株式会社赤々舎



日本初期写真史 関東編

幕末明治を撮る

History of Early Japanese Photography:

Kantō Region

Images of Japan, 1853-1912

期間：令和2年3月3日（火）～5月24日（日）0日間（令和2年3月31日までの開館日数、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、3月31日まで臨時休館）

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／
日本テレビ放送網

関東地方における幕末明治の初期写真文化に着目し、高橋則英（日本大学藝術学部写真学科教授）の指導のもと、失われた物質写真の技術をわかりやすくひとと共にと共に、幕末の開港と共に普及し、明治時代に定着する写真文化の潮流を鳥瞰した。

出品作品は、初期写真技術を解説する各技法の作品群に加え、侍たちに驚きを持って迎えられた肖像写真（ペリー来航時に制作された国指定重要文化財を含む）や日本人のイメージを欧米で形成した風俗写真、幕末期に日本を訪れた外国人による江戸や横浜、横須賀の風景写真群。そして、日本初の写真館で制作された肖像写真、日本人初の写真家である鶴飼玉川の作品をはじめ、関東地方で開業した各地で最初の写真家とその作品を紹介し、幕末明治の関東各地の姿を紹介した。

出品作家：ウィリアム・ヘンリー・タルボット、ロジャー・フェントン、アンドレ・アドルフ・ウジェーヌ・ディズデリ、ハーベイ・ロバート・マークス、エリファレット・ブラウン・ジュニア、ウィリアム・ナソー・ジョズリン、ナダール、チャールズ・ド・フォレスト・フレデリクス、オーリン・フリーマン、アントニオ・ベアト、フェリーチェ・ベアト、ライムント・フォン・シュティルフリート、チャールズ・ウィード、ミヒャエル・モーザー、レオン・ポエル、チャーズ・ウィード、アドルフォ・ファルサーリ、鶴飼玉川、深沢要橋、江崎礼二、小川一真、下岡蓮杖、清水東谷、鈴木捲雲、堀内信重、日下部金兵衛、玉村康三郎、騎兵衛、松崎晋二、内田九一、片岡如松、横山松三郎、東京印刷局、江木松四郎、田中武、玉村康三郎、鈴木真一、宮内幸太郎、吉原秀雄、宇佐美竹城、豊田尚一

出品点数：191点

入場者数：0人（令和2年3月31日現在）

展覧会図録

『日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る』

執筆者：高橋則英、井校直美、三井圭司

編集・発行：東京都写真美術館



白川義員写真展

永遠の日本／天地創造

Shirakawa Yoshikazu exhibition ;

Eternal Japan/ The Earth

期間：令和2年3月20日（金・祝）～5月17日（日）0日間（令和2年3月31日までの開館日数、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、3月31日まで臨時休館）

会場：地下1階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：凸版印刷株式会社

協力：株式会社小学館

世界的写真家で、山岳写真家としても輝かしい実績を残す白川義員は、「地球再発見による人間性回復へ」を創作活動の基本理念として、地球がもつ美や神秘、荘厳さを追求し続け、1969年出版の『アルプス』以来、『ヒマラヤ』『アメリカ大陸』『聖書の世界』『中国大陸』『神々の原風景』『仏教伝来』『南極大陸』『世界百名山』『世界百名瀑』まで、10のシリーズを発表してきた。東京都写真美術館では白川義員の集大成となる2つのシリーズを二期構成で紹介した。第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、日本人の誇りと魂を復興する一助になりたいという作家自身の願いが込められた、崇高で美しい日本の自然を紹介した。第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、アメリカ西部の砂漠で、入城が1日わずか20人に限定されているザ・ウェーブや、中国の湖南省・張家界市に位置し、「仙境」と呼ぶにふさわしい武陵源など、いずれも近年発見された地域や、「奇跡の絶景」といわれ最近話題の南米ウユニ塩湖などを中心に構成した。白川が「アルプス」発表以降、50年以上にわたり撮り続けてきた作品群の中から「天地創造」のイメージに合致する作品を一挙放出し、最新のデジタル技術とかつてないスケール感で再現した。

出品点数：326点（「永遠の日本」130点、「天地創造」196点）

入場者数：0人（令和2年3月31日現在）

企画：関次和子

展覧会図録

『永遠の日本』

『天地創造』

執筆者：白川義員

編集・発行：永遠の日本撮影プロジェクト事務局、天地創造撮影プロジェクト事務局



自主企画展

写真の起源 英国

The Origin of Photography Great Britain

期間：平成31年3月5日（火）～令和元年5月6日（月・振休）32日間（平成31年4月1日以降の開館日数）

会場：3階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

協賛：東京都写真美術館支援会員

協力：全日本空輸株式会社

日本における写真文化のセンター的役割を担う東京都写真美術館では、毎春、初期写真に焦点を当てる展示を行っており、2019年は「写真の起源 英国」展を開催した。

写真の発明に関する研究は18世紀末から始まり、1839年に最初の技術が発表されることで写真の文化が幕を開けた。英国ではヴィクトリア文化に根ざす貴族社会において、研究が発展し、文化として広く世界へ波及した。本展は、三部構成（第一章：発明者たち、第二章：ヴィクトリア朝の文化、第三章：英国から世界へ）によって、日本人たちが憧れた英国の写真文化とその歴史の広がりを再考する展示となった。

大英図書館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、国立科学メディア博物館、ヒストリック・イングランド・アーカイヴ、セント・アンドリューズ大学、バース王立文学・科学研究協会、日本大学芸術学部の協力のもと、多くの日本未公開作品を手がかりに、これまで日本国内で知られていなかった英国の写真文化の多彩な広がりを展覧した。

出品作家：ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、ジョン・ハーシェル、アンナ・アトキンス、ロジャー・フェントン、ヴィクター・プラウト、ファン・モンティソン（後のスペイン王ファン3世）、フランシス・ロッキー、ジョン・アダムソン、デイヴィッド・ヒル&ロバート・アダムソン、ヘンリー・ピーチ・ロビンソン、ジェームス・ロバートソン、フェリーチェ・ベアト、フランシス・フリス、ナソー・ジョスリン、ウィリアム・バートン

出品点数：189点

入場者数：15,499人（平成31年3月5日～令和元年5月6日）

企画：三井圭司

展覧会図録

『写真の起源 英国』

執筆者：ラリー・シャーフ、高橋則英、マルタ・ワイズ、セバステアン・ドブソン、打林俊、鳥海早喜、三井圭司

編集・発行：東京都写真美術館



嶋田 忠 野生の瞬間

華麗なる鳥の世界

Shimada Tadashi: Wild Moments

The World of Beautiful Birds

期間：令和元年7月23日（火）～9月23日（月・祝）55日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会

後援：ふじみ野市／ふじみ野市教育委員会

特別協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網／東京都写真美術館支援会員

制作協力：NHKエンタープライズ

国際的に評価が高く、現在も第一線で活躍する自然写真家・嶋田忠の個展。

嶋田忠は、カワセミ類を中心に、鳥獣の写真家として知られ、圧倒的な存在感と神々しいまでの生命力をもった「カワセミ」「アカショウビン」を力強く捉えた作品や、湿潤な日本の風土に生きる鳥獣を、日本画の伝統である「自然から学ぶ」意識と感性に裏打ちされた目で捉えた繊細な作品まで、その多彩な表現は高く評価されている。本展覧会では、作家の約40年に及ぶ創作活動を概観するとともに、「世界最古の熱帯雨林」と言われるニューギニア島を舞台に、不思議な生態と華麗な姿で人々を魅了する貴重な野生動物を紹介した。

出品点数：179点

入場者数：26,609人

企画：関次和子

展覧会図録

『嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界』

執筆者：嶋田忠、樋口広芳、関次和子

編集・発行：東京都写真美術館



イメージの洞窟：意識の源を探る

from the cave

期間：令和元年10月1日（火）～11月24日（日）46日間 ※台風19号接近に伴い2日間休館
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

協賛：凸版印刷株式会社／東京都写真美術館支援会員

協力：東京造形大学／有限会社フォトグラフアーツ・ラボラトリー

「洞窟」というモチーフには、わたしたちの複雑な意識の源を探るうえで、思いがけないほど多岐にわたる視座がある。哲学者プラトンによる「洞窟の比喩」は、イメージの認識に潜む「虚像と実在」という根源的問題を示唆しており、宗教学者ミルチャ・エリアーデは、大いなる母への神秘的な回帰、すなわち外界と関わりなおす準備をするための場として洞窟があると指摘した。本展覧会では、洞窟をモチーフや暗喩にした写真や動画の作品から、イメージや認識の作られ方を再考しようと試み、現代美術の文脈で活躍する作家たちが、洞窟という切り口から、写真を通して身体や存在、歴史や社会をとらえなおし、さらには過去と現在と未来をつなごうと試みる多様な「イメージ」群を紹介した。

展示作品は多岐にわたった。“photography”という言葉を考案した19世紀の科学者で写真発明者でもあるジョン・ハーシェルが、目の前の光景をそのまま写し取って伝えたいという欲望を具現化したカメラ・ルシーダによる洞窟のスケッチ。沖縄のガンマ（洞窟）を現代の技術とオリジナルの手作業を融合させて視覚化し、歴史と自らのアイデンティティを重ね合わせるように制作したオサム・ジェームス・中川のインスタレーション。わたしたちの身体や存在そのものが洞窟のような存在であることを想起させる北野謙の乳児の初公開・新作フォトグラム。志賀理江子が直接的に私は誰なのかと問いかける近作。洞窟の入り江から始まる古いニュース動画を紡いで未来を预言するようなフィオナ・タンの映像作品。そしてわたしたちのイメージが洞窟のように複雑に構成されていることを再考させられるゲルハルト・リヒターの近作群を展示した。

出品作家：北野謙、志賀理江子、フィオナ・タン、オサム・ジェームス・中川、ジョン・ハーシェル、ゲルハルト・リヒター

出品点数：33点

入場者数：15,810人

企画：丹羽晴美（東京都現代美術館学芸員、前・東京都写真美術館学芸員）

展覧会図録

『イメージの洞窟：意識の源を探る』

執筆：丹羽晴美

編集・発行：東京都写真美術館



至近距離の宇宙

日本の新進作家 vol.16

Close-up Universe

Contemporary Japanese Photography vol.16

期間：令和元年11月30日（土）～令和2年1月26日（日）47日間
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

助成：芸術文化振興基金

協賛：凸版印刷株式会社

協力：コエドブルワリー

2002年より開催している「日本の新進作家」展の第16回目。「至近距離の宇宙」をテーマに掲げ、ごく身近なところに意識を向けて作品を制作している6人の作家を紹介した。展示室を作家ごと6つの空間に仕切ること、各作家の作品がまとめて見られる機会とした。会期中、ギャラリートーク7回（お正月特別ギャラリートークを含む）ほか、作家とゲストによる対談6回、手話通訳付きギャラリートーク3回、対話型鑑賞会3回、託児サービス2回など多様な立場の人が鑑賞しやすくなるような関連事業を行った。

出品作家：相川勝、井上佐由紀、齋藤陽道、濱田祐史、藤安淳、八木良太

出品点数：75点（20点組、121点組、64点組を含む）

入場者数：16,354人

企画：武内厚子

展覧会図録

『至近距離の宇宙 日本の新進作家vol.16』

執筆：相川勝、井上佐由紀、齋藤陽道、濱田祐史、藤安淳、八木良太、武内厚子

編集・発行：東京都写真美術館



第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」

Yebisu International Festival for Art & Alternative

Visions 2020:

The Imagination of Time

期間：令和2年2月7日（金）～2月23日（日・祝）15日間

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
アートカウンシル東京／日本経済新聞社

共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館

後援：ブラジル大使館／カナダ大使館／TBS/J-WAVE 81.3FM

助成：大和日英基金／アジア・カルチュラル・カウンシル

協賛：全日本空輸株式会社／オランダ王国大使館／ゲーテ・インスティ
トゥート 東京ドイツ文化センター／サッポロビール株式会社

協力：カラーキネティクス・ジャパン株式会社／ぴあ株式会社／ドゥー
ビー・カンパニー株式会社／株式会社ロボット

第12回恵比寿映像祭は「時間を想像する」を総合テーマに、誰にとっても身近であり同時に解き明かされていない時間を、アートや映像表現から想像することで映像の本質に迫り、現在を考察することを試みた。今回は17カ国の国と地域より78組の作家およびゲストが出品・参加し、東京都写真美術館全フロア、恵比寿ガーデンプレイス内のザ・ガーデンルーム、センター広場や日仏会館、地域連携各所などの複合会場で、展示、上映、ライブ・イベント、トーク・セッション、ワークショップ、ガイドツアーなど多彩なプログラムを展開した。

展示（会場：東京都写真美術館 3階、2階、地下1階展示室および3階、2階、1階、地下1階ロビー）

エキソニモ／minim+／スタン・ダグラス／メルス・ファン・ズトフェン／真鍋博／ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ／時里充／マーティン・パース／若井俊雄／多和田有希／アンナ・リドラー／グアン・シャオ／三原聡一郎／シュウゾウ・アヅチ・ガリバー／木村友紀／ベン・リヴァース／ナム・ファヨン／グラダ・キロンバ／小森はるか+瀬尾夏美

ラウンジトーク&セッション（会場：東京都写真美術館 2階ロビー）

多和田有希／三原聡一郎／山口典子、石田克哉／岩野成、島田清夏／ナム・ファヨン、馬定延／時里充、小林椋／シュウゾウ・アヅチ・ガリバー、宇佐見康二

オフサイト展示（会場：恵比寿ガーデンプレイス センター広場）

「ハナビリウム」制作チーム

展示（会場：日仏会館 ギャラリー）

高谷史郎

上映（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

①ベン・リヴァース&アノーチャ・スウィーチャーゴーンボン初共同監督映画《クラビ、2562》——時間・場所・記憶が交錯する（ゲスト：ベン・リヴァース） ②ベン・リヴァース特集——異次元へのトラヴェログ（ゲスト：ベン・リヴァース） ③小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち／交代地のうたを編む》——民話の誕生に立ち会う（ゲスト：小森はるか+瀬尾夏美） ④小森はるか《空に聞く》——継承と表現 ⑤小田香《セノテ》——記憶から新たに立ち上がる風景（ゲスト：小田香） ⑥遠藤麻衣子特集《TOKYO TELEPATH 2020》——東京についての新しいSF映画（ゲスト：遠藤麻衣子、角田純） ⑦遠藤麻衣子特集《KUICHISAN》——幻想記録映画【35ミリフィルム上映】 ⑧アナ・ヴァース特集——未来の祖先へ【アイリー・ナッシュ（ニューヨーク映画祭）・セレクション①】（ゲ

スト：アナ・ヴァース、アイリー・ナッシュ） ⑨再生される現在——現代映像短編集【アイリー・ナッシュ（ニューヨーク映画祭）・セレクション②】（ゲスト：アナ・ヴァース、アイリー・ナッシュ） ⑩ファントム・ヒストリー——幻の映像史【ヘイデン・ゲスト（ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ）・セレクション①】 ⑪アーニー・ゲア新作集——時間における場所【ヘイデン・ゲスト（ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ）・セレクション②】（ゲスト：とちぎあきら、ヘイデン・ゲスト） ⑫時間を想像するアニメーション——DigiCon6 ASIA（ゲスト：山田亜樹、しばたかひろ、油原和記） ⑬スペシャル上映 渡邊琢磨《ECTO》【サウンドトラック生演奏付き上映】（ゲスト：渡邊琢磨、ほか）

スペシャル・イベント（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

高谷史郎 特別上映+トーク（ゲスト：高谷史郎、長谷川祐司）

シンポジウム（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

A. 時間を想像する（パネリスト：小森はるか+瀬尾夏美、ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ、木村友紀、中谷礼仁）

日仏会館共催企画 シンポジウム（会場：日仏会館ホール）

B. [日仏会館共催企画]「東京1964年パラリンピック記録映像」上映と講演 映像によるタイムトラベル（パネリスト：中森邦男、丹羽美之、司会：篠田勝英）

ライブ・イベント（会場：ザ・ガーデンルーム）

[フェスティバル連携|恵比寿映像祭×デジタル・ショック共催企画] SKYGGE×Ai.step 日仏アーティスト共演：AIと人間による音と映像のライブパフォーマンス（出演：SKYGGE、Ai.step、プレ・トーク司会：四方幸子）

YEBIZO MEETS ガイドツアー（会場：東京都写真美術館 全フロア）

①初めてでも楽しめる！フェスティバルの全体像を掴もうツアー [60分/日本語]（ナビゲーター：NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] /大隈理恵、東海林慎太郎、藤井理花、青木祥子） ②中国語で巡るガイドツアー [60分/中国語]（ナビゲーター：戴周杰） ③変性意識と宇宙|時間の旅を巡るガイドツアー [60分/日本語]（ナビゲーター：ロジャー・マクドナルド）

YEBIZO MEETS トーク&ワークショップ（会場：東京都写真美術館 1階スタジオ、展示室）

①POSTとTRANS BOOKSの主宰者に聞く アートブックを通じた新しい動きとは（講師：中島佑介、畑ユリエ、飯沢未央、萩原俊矢 [TRANS BOOKS]） ②こどももおとなも哲学セッション！作品をみて、感じて、いろいろな「ふしぎ」を考えよう！（講師：山森裕毅） ③フェスティバルを自分の言葉で伝えよう！書くヒントを見つける90分（講師：アンドリュウ・マークル） ④「アイドントノウ」と一緒に考える！フェスティバルの楽しみ方ガイド（講師：角田崇・治田将之・青木亮作・田久保彬 [idontknow.tokyo]） ⑤やさしい言葉で、映像の今を考える～恵比寿で活動するジャーナリストの堀潤を迎えて（講師：堀潤、聞き手：タカハシケンジ）

YEBIZO MEETS 地域連携プログラム（会場：地域連携各所）

公益財団法人日仏会館／YEBISU GARDEN CINEMA／Rocky Shore／MA2 Gallery／CAGE GALLERY／工房親 CHIKA／MuCuL／NADiff a/p/a/r/t／MEM／AL（企画：TRAUMARIS）／NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] /LOKO GALLERY

※本事業はTokyo Tokyo FESTIVALの一環として開催した。

出品点数：計73点（展示34点 オフサイト展示1点 上映34点 スペシャル・イベント1点 シンポジウム1点 ライブ・イベント2点）

入場者数：83,938人（地域連携プログラム含むフェスティバル総数：87,335人）

企画：田坂博子、岡村恵子、遠藤みゆき、柳生みゆき
外部企画：多田かおり、清水裕、印牧雅子、堀江映予

展覧会図録

「第12回恵比寿映像祭 時間を想像する」(公式パンフレット)

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2020:

The Imagination of Time

執筆者：アイリー・ナッシュ、ヘイデン・ゲスト、山田亜樹、田坂博子、
岡村恵子、多田かおり、遠藤みゆき、清水裕、印牧雅子、堀
江映予、柳生みゆき

編集・発行：東京都写真美術館

写真とファッション

Photography and Fashion Since the 1990s

期間：令和2年3月3日(火)～5月10日(日) 0日間(令和2年3月31日まで
の開館日数、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観
点から、3月31日まで臨時休館)

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
読売新聞社/美術館連絡協議会

協賛：ライオン/大日本印刷/損保ジャパン日本興亜/日本テレビ放送網
/東京都写真美術館支援会員

「写真とファッション」をテーマとし、1990年代以降の写真とファッ
ションの関係性を探る展覧会。これまで写真は衣服が持つ魅力を
伝えるという重要な役割を担うとともに、写真によって作り出されるイ
メージは、ときには衣服そのものよりも人々をひきつけ、時代を象徴
するようなイメージとなってきた。監修に、長年にわたり文化誌『花
椿』の編集者としてファッションやアートの世界を見つめてきた林央
子氏を迎え、国内外のアーティストによる作品や、時代のターニング
ポイントとなった稀少なファッション誌の展示など、様々な角度から
写真とファッションの関係性を探った。

出品作家：アンダース・エドストローム、高橋恭司、エレン・フライス×前
田征紀、PUGMENT、ホンマタカシ

出品点数：98点

入場者数：0人(令和2年3月31日現在)

企画：伊藤貴弘

展覧会図録

『写真とファッション』

執筆者：林央子(本展監修者)・伊藤貴弘

編集・発行：東京都写真美術館



大石芳野写真展 戦禍の記憶

Oishi Yoshino Ravages of War

期間：平成31年3月23日(土)～令和元年5月12日(日) 37日間(平成31年4月1日以降の開館日数)

会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

協力：東京工芸大学 写大ギャラリー/有限会社フォトグラファーズ・ラボラトリー

戦争の悲惨な傷痕に今なお苦しむ声なき民に向きあい、平和の尊さを問いつづける大石芳野。本展では約40年にわたり、戦争の犠牲となった人々取材し、いつまでも記憶される戦禍の傷にレンズを向けてきた作品162点を展覧した。

出品点数：162点

入場者数：13,472人(平成31年3月23日～令和元年5月12日)

展覧会図録

『大石芳野 戦禍の記憶』

Oishi Yoshino Ravages of War

編集・発行：クレヴィス

第44回 2019 JPS展

日本写真家協会

2019 The 44th Exhibition of The JPS

期間：令和元年5月18日(土)～6月2日(日) 14日間

会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本写真家協会

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：文化庁/東京都

公益社団法人日本写真家協会(略称JPS)は全国に1,600名余りの会員を擁する写真団体である。本展は本協会創立の翌年1951年に「日本写真家協会 第1回展」として開催し、1976年に「JPS展」と名称を新たにし、1977年からは一般公募を開始した。91年から写真学生をタ対象とした「ヤングアイ」にまで規模を拡大し、名古屋、京都などでも開催している。デジタル写真の急速で広範な発展もあり、JPS展に対する関心も高まり、毎年多数の応募を記録するようになった。作品内容、技術水準も高く、写真展として高い評価を受け、今や写真家協会の活動の核のひとつとなり、写真の世界で注目されている。

出品点数：542点

入場者数：3,575人

展覧会図録

『第44回 JPS展 作品集』

発行：公益社団法人日本写真家協会



世界報道写真展2019

World Press Photo 19

期間：令和元年6月8日(土)～8月4日(日) 50日間
会場：地下1階展示室

主催：世界報道写真財団／朝日新聞社
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
後援：オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／
公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟
協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社／グッティイメージズジャ
パン株式会社
協力：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが、オランダのアムステルダムで開催され、今年は129の国と地域から4,738人のフォトグラファーが参加し、7万点を超える作品を応募した。本展では、その中から選ばれた大賞など160点の入賞作品を紹介。今年の大賞はメキシコとの国境沿いにあるアメリカ・テキサス州マッカレンで、ホンジュラスからともに来た母親が国境監視員の取り調べを受けている間、泣き叫ぶ子供の様子を撮影した作品が選ばれた。世界を駆け巡ったニュースや現代社会が抱える問題、スポーツの決定的瞬間など、同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を写真から知ることのできる貴重な展覧会となった。

出品点数：160点
入場者数：31,121人

展覧会図録

『World Press Photo 19』
編集：世界報道写真財団
発行：シュルト出版



写真新世紀展2019

New Cosmos of Photography 2019

期間：令和元年10月19日(土)～11月17日(日) 26日間
会場：地下1階展示室

主催：キヤノン株式会社
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展の応募人数は1,959名。出品者数は22名、優秀賞7名、佳作14名、前年度グランプリ受賞者1名。審査員：ユーリン・リー(台湾高雄市立美術館ディレクター)、ポール・グラハム(写真家)、サンドラ・フィリップス(SF MoMA名誉キュレーター)、安村崇(写真家)、榎木野衣(美術評論家)、リネケ・ダイクストラ(写真家)、瀧本幹也(写真家) [敬称略]。関連イベントとして11月8日(金)「グランプリ選出公開審査会・表彰式」(会場：1階ホール)をはじめ、会期中にアーティスト・トーク、ポートフォリオ・レビュー、レクチャーを開催した。

出品点数：258点
入場者数：10,389人



中野正貴写真展

「東京」

Masataka Nakano Photo Exhibition

– Tokyo

期間：令和元年11月23日（土）～令和2年1月26日（日）53日間

会場：地下1階展示室

主催：株式会社クレヴィス

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協力：株式会社朝日新聞出版／有限会社アートアンリミテッド

本展は変貌を続ける世界都市「東京」を鋭い感性と巧みな空間把握で30年余にわたり撮影し続ける中野正貴の個展。誰もいない東京の姿を写した『TOKYO NOBODY』、ビルや民家の窓から垣間見たシュールな『東京窓景』、川を漂い水上を浮遊する都市像を捉えた『TOKYO FLOAT』などを発表し話題となる。本展は“東京三部作”といわれる代表作を中心に、新作・未発表作で構成した集大成展。本展用に編成された「TOKYO TOWER」や8×10など大型カメラで撮られた4m超の巨大プリントなど作品約100点を展示した。

出品点数：179点

入場者数：17,240人

展覧会図録

『東京』

執筆者：中野正貴

編集：河村昌悟

発行：クレヴィス



APAアワード2020

第48回 公益社団法人日本広告写真家協会公募展

期間：令和2年2月29日（土）～3月15日（日）0日間 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、開催中止

会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：オリンパス株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社／株式会社ニコンイメージングジャパン／株式会社ピクトリコ／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／株式会社フレームマン

協力：法人賛助会員各社

公益財団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2020」の入賞・入選作品を一堂に会する展覧会。

「広告作品部門」は実際に世の中に流通した広告写真から審査し選出し、「写真作品部門」では、「2020」と言うテーマで一般公募された写真の中から展示した。

出品点数：広告作品部門46件、APAアーカイヴス17点、写真作品部門71件

入場者数：0人

展覧会図録

『年鑑 日本の広告写真2020』

監修：公益財団法人日本広告写真家協会

編集：玄光社

〔併設〕第11回「全国学校図工・美術写真公募展」

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）

共催：全国造形教育連盟／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：文化庁／東京都教育委員会／財団法人教育美術振興会／財団法人美育文化協会／公益社団法人日本写真協会

協賛：一般社団法人日本写真文化協会／学校法人池田学園 東京服飾専門学校／オリンパス株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／リコーイメージング株式会社

協力：法人賛助会員各社



スクールプログラム

学校の児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習が出来るように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や活動、教職員の研修と連携し、スクールプログラムを実施した。

当館のスクールプログラムの特徴は、写真や映像作品の制作と作品鑑賞の両方を一度に体験できる点にある。そのため、表現と鑑賞の両面から、写真／映像の仕組みと楽しさを体験的に理解することが可能である。

今年度はTOPコレクション「イメージを読む」展の時期に合わせて多くの来館があり、展覧会の出品作品を用いた対話型鑑賞と当館ならではの施設である暗室での制作などを組み合わせたプログラム体験を行ったほか、夏休みの時期には、対話型作品鑑賞の教員研修などでスクールプログラムの利用がみられた。

実施回数：45回
参加人数：1,195人

作品鑑賞体験プログラム

A. 対話しながら作品を見てみよう

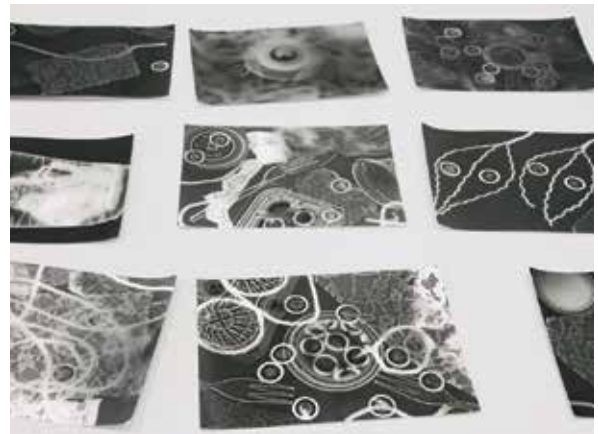
グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルの形と言葉を組み合わせるゲーム「色と形と言葉のゲーム」を実施し、思ったことを自由に話すことや友達と考えが違うことの楽しさを体験し、その後展示室での作品鑑賞を行う。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力などさまざまな力を育成するきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



暗室体験プログラム

B. フォトグラム

フォトグラム（フォトジェニック・ドローイング）はさまざまなものの影を、印画紙へ直接写し取る写真方式のこと。本プログラムでは、各自が持参した身の回りの日用品（布や紙、ガラスやプラスチックなど）を印画紙の上に並べ、暗室で現像作業を行い、作品を制作する。カメラに頼らない自由な造形活動により、ものの形の多様さを実感しながら、写真ならではの光と影による表現とモノクロ銀塩写真の暗室作業プロセスを体験できる。



C. デジタルカメラの画像から白黒写真をプリントする

各自がデジタルカメラで撮影した写真画像を事前に美術館に提出してもらい、あらかじめ作成しておいたデジタルネガシートを用いて、暗室で白黒写真現像を体験する。デジタル画像だけでなく、フィルムカメラ（モノクロネガフィルム）での現像体験も可能である。プログラムでは、1~2カットの画像を、段階露光や、フィルター調整、追い焼き、覆い焼きなどを行いながら何度もプリントを繰り返し、理想のプリントに近づけていく。



手作りアニメーション体験プログラム

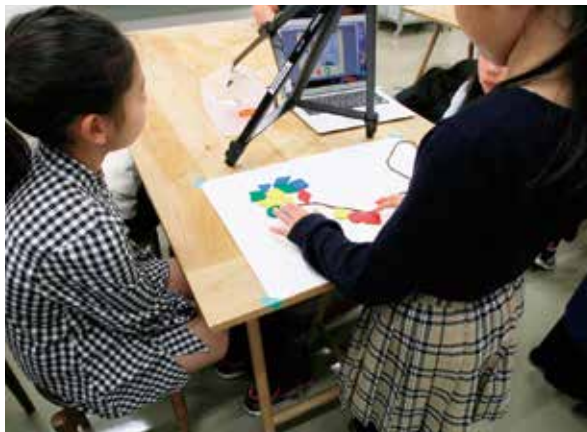
D. 驚き盤

驚き盤（フェナキスチスコープ）とは、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマ描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みのもの。このプログラムでは、驚き盤に絵を描いて、それを鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを楽しみながら体験的に学ぶことができる。また、どのようにしたら動いて見えるのかを観察し、自ら考える能動的学習、自身で描くことによってアニメーション表現を行う体験的理解、仲間と互いに驚き盤を覗くことでのコミュニケーションを伴った学習という3つの学びを楽しみながら行うことができる。



E. コマ撮りアニメーション

専用のソフトを搭載したパソコンやウェブカメラなどの機材を用いて、テーブル上の様々なモチーフをコマ撮り撮影し、アニメーションを制作する。アニメーションならではの映像表現の仕組みを知り、動かないものに命を与えるアニメーションの魅力と楽しさを体験することができる。また、複数人がグループとなってひとつのアニメーションを作り上げるため、その過程を通して相互協力、リーダーシップ、意見の調整など、さまざまな生きる力がはぐくまれるプログラムである。



平成31年度 スクールプログラム実績

年月日	時間	団体名	対象・学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容
1 4月13日(土)	15:00-16:00	京都造形芸術大学	教員	教員研修	9	3階展示室	英国展展示解説
2 4月19日(金)	19:00-19:30	日本写真芸術専門学校II部(夜間部)	1年生	美術館研修	23	3階展示室	英国展展示解説
3 4月24日(水)	14:00-15:00	日本大学 芸術学部 写真学科 高橋・西垣ゼミ	大学生	授業等	19	3階展示室	英国展展示解説
4 4月25日(水)	17:00-18:00	青山学院大学 経営学部 大道ゼミ	大学生	授業等	10	3階展示室	英国展展示解説
5 4月26日(金)	10:00-11:00	日本大学 芸術学部 写真学科 写真基礎演習III	大学生	授業等	4	3階展示室	英国展展示解説
6 5月17日(金)	10:00-12:00	日本大学 通信教育部	大学生	授業等	16	当館スタジオ、3階展示室	概要説明、場所をめぐる4つの物語展対話型鑑賞
7 5月23日(木)	10:00-12:00	中央区京橋築地小学校	5年生	校外学習	38	当館スタジオ、3階展示室	驚き盤、場所をめぐる4つの物語展対話型鑑賞
8 5月30日(木)	10:00-12:00	東京造形大学	大学生	授業等	25	2、3階展示室	宮本隆司展展示解説、展覧会自由見学
9 5月30日(木)	14:30-16:30	東京造形大学	大学生	授業等	23	2、3階展示室	宮本隆司展展示解説、展覧会自由見学
10 6月7日(金)	13:30-15:30	東邦大学 看護学科	大学生	学外授業	23	当館スタジオ	対話型鑑賞についてのレクチャー
11 6月6日(木)	13:00-15:00	日本大学 芸術学部 写真学科	大学生	授業	20	3階展示室	場所をめぐる4つの物語展展示解説
12 6月14日(金)	18:00-20:00	学習院大学	大学生	博物館実習	11	3階展示室	場所をめぐる4つの物語展展示解説
13 6月18日(火)	13:30-15:30	日本大学 芸術学部 写真学科 服部ゼミ	大学生	博物館実習	23	2、3階展示室	宮本隆司展および場所をめぐる4つの物語展展示解説、展覧会自由見学
14 6月21日(金)	13:30-15:30	日本大学 芸術学部 写真学科 服部ゼミ	大学生	博物館実習	26	2、3階展示室	宮本隆司展および場所をめぐる4つの物語展展示解説、展覧会自由見学
15 6月25日(水)	15:00-15:30	インディアナ大学	大学生	校外学習	16	2階展示室	館概要説明、イメージの洞窟展展示解説
16 6月27日(木)	10:50-12:50	明治大学 国際日本学部	大学生	授業等	8	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、場所をめぐる4つの物語展対話型鑑賞
17 7月10日(水)	14:00-16:30	足立区図工部会	図工教員	教員研修	57	当館スタジオ、地下1階学習室	フォトグラム、対話型鑑賞のレクチャー、スライドでの対話型鑑賞
18 7月12日(金)	10:00-14:30	港区立御田小学校	4年生	授業等	58	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、場所をめぐる4つの物語展対話型鑑賞
19 7月23日(火)	14:00-15:00	都立世田谷泉高校	高校生	部活動	6	当館スタジオ、3階展示室	場所をめぐる4つの物語展対話型鑑賞
20 7月25日(木)	13:00-14:30	渋谷区原宿外苑中学校	中学生	部活動	15	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、場所をめぐる4つの物語展自由見学
21 7月30日(火)	10:00-12:00	大田区東調布中学校	中学生	授業等	15	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、場所をめぐる4つの物語展対話型鑑賞
22 7月31日(水)	10:00-12:00	武蔵野美術大学 博物館学概論	通信教育課程	授業等	27	当館スタジオ	館概要説明、展覧会自由見学
23 8月2日(金)	10:30-12:30	茨城県立高等学校 文化連盟写真部会	高校生	部活動	43	当館スタジオ	館概要説明、展覧会自由見学
24 8月20日(火)	13:30-17:00	東京都歴史文化財団主催 ティーチーズプログラム	教員	教員研修	12	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、写真の時間展対話型鑑賞、概要説明
25 8月22日(木)	13:00-16:00	大田区図工部会	教員	教員研修	22	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、写真の時間展対話型鑑賞、概要説明
26 8月27日(火)	13:30-16:30	板橋区図工部会	教員	教員研修	24	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、写真の時間展対話型鑑賞、概要説明
27 8月28日(水)	10:00-12:00	東京大学教育学部附属 中等教育学校	中学、高校生	部活動	7	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、写真の時間展対話型鑑賞
28 8月30日(金)	13:00-16:00	東村山市南台小学校	5年生	出前授業	49	同校	対話型鑑賞と美術館紹介
29 9月13日(金)	10:00-11:40	港区立港陽小学校	6年生	授業等	52	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーション、写真の時間展対話型鑑賞
30 9月26日(木)	10:00-11:45	港区立白金の丘小学校	5年生	授業等	36	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、写真の時間展対話型鑑賞
31 9月26日(木)	13:00-14:45	影路駅台芸術進学塾(中国、北京)	高校生	見学会	32	地下1階、3階展示室	ポーランド女性作家展、写真の時間展展示解説
32 9月27日(金)	13:00-14:50	港区立白金の丘小学校	5年生	授業等	71	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、写真の時間展対話型鑑賞
33 10月1日(火)	13:00-15:00	多摩美術大学 笠原恵美子研究室	大学生	授業等	21	当館スタジオ、地下1階展示室	館概要説明、ポーランド女性作家展概要説明
34 10月9日(水)	10:30-11:30	東京造形大学	大学生	授業等	4	2階展示室	イメージの洞窟展展示解説
35 10月10日(木)	14:00-15:00	東京造形大学	大学生	授業等	16	2階展示室	イメージの洞窟展展示解説
36 10月18日(土)	16:20-17:40	ベガサスインターナショナルスクール	年長、小1、小2	授業等	7	当館スタジオ、3階展示室	驚き盤、写真の時間展対話型鑑賞
37 10月31日(木)	10:00-11:30	東京造形大学	大学生	授業等	20	2階展示室	イメージの洞窟展展示解説
38 11月1日(土)	13:00-14:30	東京大学 教養学部	大学生	授業等	16	当館スタジオ、3階展示室	館概要説明、写真の時間展対話型鑑賞
39 11月30日(土)	14:00-15:30	帝京科学大学 看護学科	大学生	授業等	36	当館スタジオ、2階展示室	対話型鑑賞についてのレクチャー、新進作家展解説
40 12月12日(木)	10:00-12:30	筑波大学附属駒場中学校	中学生	授業等	13	当館スタジオ、2階展示室	フォトグラム、新進作家展対話型鑑賞
41 12月22日(日)	14:30-17:30	武蔵野美術大学 芸術文化学科	大学生	博物館実習	56	当館スタジオ、2階展示室	館概要説明、バックヤード見学、新進作家展解説等
42 1月16日(木)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	42	当館スタジオ、2階展示室	コマ撮りアニメーション、新進作家展対話型鑑賞
43 1月21日(木)	13:15-15:00	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	64	当館スタジオ、2階展示室	驚き盤、新進作家展対話型鑑賞
44 1月17日(木)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	68	当館スタジオ、2階展示室	フォトグラム、新進作家展対話型鑑賞
45 1月18日(土)	13:30-15:30	自由ヶ丘学園高等学校	写真部	部活動	12	当館スタジオ、2階展示室	フォトグラム、新進作家展対話型鑑賞
合計					45回	1,195人	

写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するための体験プログラムを年間通して実施した。当館のパブリックプログラムでは、一般を対象とした入門的な暗室ワークショップをはじめとして、小学生向けのワークショップ、展覧会を楽しむための鑑賞プログラムなど、子供から大人、初心者から上級者までの幅広い層を対象に、それぞれの関心に応じた活動に参加する機会を提供するとともに、専門的な関心を深めていきたい人に対しても充実したプログラムを行った。

実施回数：29回

参加人数：371人

作品鑑賞

- 「じっくり見たり、つくったりしよう!」(小学生とその保護者対象)
TOPコレクション展に関連して作品鑑賞と暗室体験を行うプログラム。



- 「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」(大人対象)
目の見えない人と見える人が一緒に言葉で伝え合いながら展覧会を鑑賞するプログラム。

制作体験、レクチャー等

- 「モノクロ銀塩プリントワークショップ」(中高生~大人対象)
ネガフィルムやデジタル画像から暗室で本格的な写真の焼き付けを体験できるプログラム。



- 「フォトドキュメンタリー・ワークショップ」(フォトジャーナリスト志望者対象)

21世紀のフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの実践的な方法を学ぶプログラム。



- 「夏休みワークショップ」(小学生対象)

自由研究にも最適な、写真や映像を楽しみながら学ぶプログラム。



- 「写真のプレゼンテーションを学ぶ」(大人対象)
人に見せる写真へのステップアップを目的に、写真で人に何かを伝えるスキルを高めるためのプログラム。

- 「クロマキーランド」(子供から大人まで対象)
様々な写真画像を背景にした合成写真による記念撮影を体験できる体験イベント。

- 「手作りアニメーション体験」(小学生とその保護者対象)
コマ撮りアニメーションや驚き盤を制作してアニメーションの基本を楽しみながら学ぶプログラム。

平成31年度 パブリックプログラム実績

写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するきっかけとなるようなプログラムを行っている。子供から大人まで、また初心者から上級者まで幅広い層を対象に、制作体験のプログラムや対話をしながら作品を鑑賞するプログラムなどさまざまな切り口のプログラムを提供した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
1 宮本隆司ワークショップ「見るためには聞が必要だ」	宮本隆司 (出品作家)	令和元年6月1日 (土)	16	4,000円
2 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ [Aコース] 「TOPコレクション 場所をめぐる4つの物語」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和元年6月8日 (土)	5	500円
3 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ [Bコース] 「TOPコレクション 場所をめぐる4つの物語」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和元年6月15日 (土)	5	500円
4 モノクロ銀塩プリントワークショップ [Aコース]	当館スタッフ	令和元年6月22日 (土)	5	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
5 モノクロ銀塩プリントワークショップ [Bコース]	当館スタッフ	令和元年6月22日 (土)	7	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
6 モノクロ銀塩プリントワークショップ [Cコース]	当館スタッフ	令和元年6月29日 (土)	13	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
7 モノクロ銀塩プリントワークショップ [Dコース]	当館スタッフ	令和元年6月29日 (土)	4	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
8 フォトドキュメンタリーワークショップ 2019	Q. サカマキ (写真家)、外山俊樹 (朝日新聞社映像報道部)	令和元年7月13日 (土)、14日 (日)、15日 (月・祝)	51	20,000円 ※参加人数は3日間のべ人数
9 フォトドキュメンタリーワークショップ 2019—一般公開レビュー	Q. サカマキ (写真家)、外山俊樹 (朝日新聞社映像報道部)	令和元年7月15日 (月・祝)	20	無料
10 写真のプレゼンテーションを学ぶ 19/01	河西香奈 (KANA KAWANISHI GALLERYディレクター)、石田哲朗 (当館学芸員)	令和元年7月19日 (金)	6	1,000円
11 じっくり見たり、つくったりしよう! [Aコース] 「TOPコレクション 場所をめぐる4つの物語」展	当館スタッフ	令和元年7月27日 (土)	16	1組800円 小学生とその保護者
12 じっくり見たり、つくったりしよう! [Bコース] 「TOPコレクション 場所をめぐる4つの物語」展	当館スタッフ	令和元年7月28日 (日)	16	1組800円 小学生とその保護者
13 夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦! (Aコース)	当館スタッフ	令和元年8月24日 (土)	11	1,000円 小学3年生-6年生とその保護者 (小学生のみの参加可)
14 夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦! (Bコース)	当館スタッフ	令和元年8月24日 (土)	12	1,000円 小学3年生-6年生とその保護者 (小学生のみの参加可)
15 夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦! (Cコース)	当館スタッフ	令和元年8月25日 (日)	12	1,000円 小学3年生-6年生とその保護者 (小学生のみの参加可)
16 夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦! (Dコース)	当館スタッフ	令和元年8月25日 (日)	11	1,000円 小学3年生-6年生とその保護者 (小学生のみの参加可)
17 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ [Aコース] 「TOPコレクション 写真の時間」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和元年9月1日 (日)	7	500円
18 バーチャル撮影体験イベント 「クロマキアランド」	当館スタッフ	令和元年9月14日 (土)	48	無料
19 写真のプレゼンテーションを学ぶ 19/02	河西香奈 (KANA KAWANISHI GALLERYディレクター)、石田哲朗 (当館学芸員)	令和元年9月20日 (金)	6	1,000円
20 じっくり見たり、つくったりしよう! 「TOPコレクション 写真の時間」展	当館スタッフ	令和元年11月2日 (土)	6	1組800円 小学生とその保護者
21 モノクロ銀塩プリントワークショップ [土曜日Aコース]	当館スタッフ	令和元年12月7日 (土)	7	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
22 モノクロ銀塩プリントワークショップ [平日Aコース]	当館スタッフ	令和元年12月11日 (水)	9	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
23 モノクロ銀塩プリントワークショップ [土曜日Bコース]	当館スタッフ	令和元年12月14日 (土)	12	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
24 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ [Aコース] 「至近距離の宇宙」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和元年12月15日 (日)	6	500円
25 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ [Bコース] 「至近距離の宇宙」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和2年1月11日 (土)	5	500円
26 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ [夜間特別コース] 「至近距離の宇宙」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和2年1月16日 (木)	7	500円
27 写真のプレゼンテーションを学ぶ 20/01	河西香奈 (KANA KAWANISHI GALLERYディレクター)、石田哲朗 (当館学芸員)	令和2年1月17日 (金)	4	1,000円
28 モノクロ銀塩プリントワークショップ [平日Bコース]	当館スタッフ	令和2年1月22日 (水)	9	銀塩ネガフィルムご使用の場合：一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合：一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
29 オープンワークショップ：手作リアニメーション体験	当館スタッフ	令和2年1月26日 (日)	35	300円
合計 29回 371人				

対話型作品鑑賞の効果を高めるために、そのウォーミングアップとして実施している当館のオリジナル教材「色と形と言葉のゲーム」を実用新案登録した。また、それに合わせ、学校をはじめ多くの方々にも使っていただけるように製品化した。

「色と形と言葉のゲーム」 価格4,150円(税抜)

内容物:

- ① 色と形のカード 12色、21種類
- ② 言葉のカード 80種類
- ③ あそびかたガイド 1冊



色と形のカード



言葉のカード



色と形と言葉のゲーム パッケージ



解説冊子「あそびかたガイド」

(photo Ryosuke Yamahiro)

講演会等

展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【自主企画展・収蔵展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
志賀理江子 ヒューマン・スプリング	てつがくカフェ「ヒューマン・スプリング」 第1回 展覧会から「ヒューマン」を考える	平成31年4月13日(土)	ファシリテーター: 西村高宏(てつがくカフェ@せんだい)	45	
	てつがくカフェ「ヒューマン・スプリング」 第2回 展覧会から「スプリング」を考える	平成31年4月27日(土)	ファシリテーション・グラフィック: 近田真美子(てつがくカフェ@せんだい)	34	
写真の起源 英国	カロタイプ制作ワークショップ	平成31年4月6日(土)・7日(日)	田村政実(田村写真代表)	12	
	講演会	平成31年4月21日(日)	ラリー・シャーフ(ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット・カタログレゾネ デイレクター)	111	
	レクチャー	平成31年4月21日(日)	ラリー・シャーフ(ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット・カタログレゾネ デイレクター)	9	
宮本隆司 いまだ見えざるところ	鼎談	令和元年5月25日(土)	倉石信乃(明治大学教授)×林道郎(美術史・美術批評)×宮本隆司(出品作家)	70	
	対談	令和元年6月22日(土)	佐々木幹郎(詩人)×宮本隆司(出品作家)	57	
嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界	連続対談「空の王者、大いに語る」「鳥と生きる」	令和元年8月3日(土)	安西英明(公益財団法人日本野鳥の会主席研究員)×嶋田忠(出品作家)	183	
	連続対談「空の王者、大いに語る」「陸の覇者×空の王者」	令和元年8月10日(土)	宮崎学(写真家)×嶋田忠(出品作家)	239	
	連続対談「空の王者、大いに語る」「鳥から学ぶ」	令和元年8月17日(土)	樋口広芳(東京大学名誉教授、鳥類学)×嶋田忠(出品作家)	250	
	アーティストによるネイチャートーク	令和元年8月4日(日)・11日(日・祝)・18日(日)・25日(日)・9月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)	嶋田忠(出品作家)	1,191	
	〈特別上映アフタートーク〉嶋田 忠 撮影監督「ワイルドドライブ/南太平洋 ニューギニア島 踊る南国の鳥たち 求愛術を競う」	令和元年8月24日(土)	横須賀孝弘(NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー)×嶋田忠(出品作家)	224	
しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像	出品アーティストによるリレートーク	令和元年8月15日(木)	ヨアンナ・ライコフスカ、カロール・ラヂシェフスキ、ヤナ・ショスタク(出品作家)	44	
	講演会「ポーランド美術とフェミニズム」	令和元年8月18日(日)	アンナ・クテラ(出品作家)、マリカ・クジミチ(美術史家、アルトン財団代表)、アグニエシュカ・レイザヘル(lokai_30ディレクター)	84	
	講演会「クリティカル・アート潮流の中で」	令和元年8月31日(土)	加須屋明子(キュレーター、美術史家、京都市立芸術大学教授)、バルバラ・トロヤノフスカ(アダム・ミツキエヴィッチ・インスティテュート)	54	
	関連上映 カタジナ・コズィラ《ジーザスをさがして》	令和元年8月31日(土)		63	
イメージの洞窟 意識の源を探る	アーティストトーク	令和元年10月1日(火)	北野謙×オサム・ジェームス・中川	65	
	色彩ワークショップ	令和元年10月5日(土)	ファシリテーター: 杉浦幸子(社会設計家[芸術文化領域]、武蔵野美術大学芸術文化学専攻教授) / 講師: 北野謙(出品作家)	8	
	音と見る洞窟	令和元年10月5日(土)	出演: オサム・ジェームス・中川(出品作家) 音楽: フェデリコ・アゴ스티ーニ(ヴァイオリニスト)	中止	
	北野謙〈未来の他者〉プロジェクト・共同制作	令和元年11月4日(月・振休)	北野謙(出品作家)	9	
	色彩ワークショップ・北野謙〈未来の他者〉プロジェクト・ビューイング	令和元年11月16日(土)		27	
山沢栄子 私の現代	講演会「物が少ない作家 — 山沢栄子の写真とアメリカ」	令和元年11月23日(土・祝)	池上司(西宮市大谷記念美術館学芸員)	22	
	講演会「山沢栄子が出会ったアメリカ — 女性、写真、創造する知覚」	令和元年12月1日(日)	日高優(立教大学教授)	39	
	ワークショップ 身近な素材であなたの世界をつくってみよう	令和元年11月30日(土)	うつゆみこ(写真家)	9	
至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16		令和元年12月20日(金)	濱田祐史(出品作家)×増田玲(東京国立近代美術館主任研究員)	47	
	作家とゲストによる対談	令和元年12月21日(土)	齋藤陽道(出品作家)×イ・ラン(シンガー・ソングライター、作家) * 手話通訳付き	72	
		令和2年1月12日(日)	藤安淳(出品作家)×竹内万里子(批評家)	73	
		令和2年1月13日(月)	井上佐由紀(出品作家)×穂村弘(歌人)	115	
		令和2年1月18日(土)	相川勝(出品作家)×中尾拓哉(美術評論家)	48	
		令和2年1月25日(土)	八木良太(出品作家)×日下部一司(美術家)	77	
	ラウンジトーク		令和2年2月7日(金)	多和田有希(出品作家)	70
			令和2年2月11日(火・祝)	三原聡一郎(出品作家)	151
		令和2年2月15日(土)	[地域連携プログラム MEM] 山口典子(美術家) / 石田克哉(画廊主宰 [MEM])	125	
		令和2年2月23日(日・祝)	岩野成(株式会社丸玉屋取締役、ハナビリウム制作チーム)、島田清夏(アーティスト、ハナビリウム制作チーム)	127	
第12回恵比寿映像祭 時間を想像する	ラウンジセッション	令和2年2月8日(土)	ナム・ファヨン(出品作家)、馬定延(明治大学特任講師)	142	
		令和2年2月11日(火・祝)	時里充(出品作家)、小林椋(美術家)	227	
		令和2年2月15日(土)	シュウゾウ・アヅチ・ガリバー(出品作家)、宇佐見康二(東京大学先端科学技術研究センター准教授)	111	
	上映関連ゲストトーク1、ベン・リヴァース&アノーチャ・スウィーチャーゴーンボン初共同監督映画《クラブ、2562》— 時間・場所・記憶が交錯する	令和2年2月14日(金)	ベン・リヴァース(出品作家)	76	
		令和2年2月23日(日・祝)	ベン・リヴァース(出品作家)	190	
	上映関連ゲストトーク2、ベン・リヴァース特集— 異次元へのトラヴェローグ	令和2年2月16日(日)	ベン・リヴァース(出品作家)	88	
		令和2年2月22日(土)	ベン・リヴァース(出品作家)	99	
	上映関連ゲストトーク3、小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち/交代地のうたを編む》— 民話の誕生に立ち会う	令和2年2月7日(金)	小森はるか+瀬尾夏美(出品作家)	117	
	令和2年2月18日(火)	小森はるか+瀬尾夏美(出品作家)	132		
	令和2年2月23日(日・祝)	小森はるか+瀬尾夏美(出品作家)	190		
上映関連ゲストトーク4、小森はるか《空に聞く》— 継承と表現	令和2年2月14日(金)	小森はるか(出品作家)	96		
	令和2年2月22日(土)	小森はるか(出品作家)	186		
上映関連ゲストトーク5、小田香《セノーテ》— 記憶から新たに立ち上がる風景	令和2年2月16日(日)	小田香(出品作家)	190		

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第12回恵比寿映像祭 時間を想像する	上映関連ゲストトーク6. 遠藤麻衣子特集《TOKYO TELEPATH 2020》—東京についての新しいSF映画	令和2年2月9日(日)	遠藤麻衣子(出品作家)	190
		令和2年2月22日(土)	遠藤麻衣子(出品作家)、角田純(作家)	190
	上映関連ゲストトーク7. 遠藤麻衣子特集《KUICHISAN》—幻想記録映画[35ミリフィルム上映]	令和2年2月21日(金)	遠藤麻衣子(出品作家)	99
	上映関連ゲストトーク8. アナ・ヴァス特集—未来の祖先へ【アイリー・ナッシュ(ニューヨーク映画祭)・セレクション①】	令和2年2月16日(日)	アナ・ヴァス(出品作家)、アイリー・ナッシュ(ニューヨーク映画祭)	95
	上映関連ゲストトーク9. 再生される現在—現代映像短編集【アイリー・ナッシュ(ニューヨーク映画祭)・セレクション②】	令和2年2月13日(木)	アイリー・ナッシュ(ニューヨーク映画祭)	25
		令和2年2月15日(土)	アイリー・ナッシュ(ニューヨーク映画祭)	83
	上映関連ゲストトーク10. フェントム・ヒストリー—幻の映像史【ヘイデン・ゲスト(ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ)・セレクション①】	令和2年2月15日(土)	ヘイデン・ゲスト(ハーバード・フィルム・アーカイヴ・ディレクター)	62
	上映関連ゲストトーク11. アニー・ゲア新作集—時間における場所【ヘイデン・ゲスト(ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ)・セレクション②】	令和2年2月12日(水)	とちぎあきら(フィルムアーキヴィスト)	27
		令和2年2月15日(土)	ヘイデン・ゲスト(ハーバード・フィルム・アーカイヴ・ディレクター)	78
	上映関連ゲストトーク12. 時間を想像するアニメーション—DigiCon6 ASIA	令和2年2月13日(木)	山田亜紀(DigiCon6 ASIA)、しばたかひろ(監督)、油原和記(監督)	46
	上映関連ゲストトーク13. スペシャル上映 渡邊琢磨《ECTO》[サウンドトラック生演奏付き上映]	令和2年2月11日(火・祝)	渡邊琢磨(出品作家)	① 122 ② 97
	スペシャル・イベント 高谷史郎 特別上映+トーク	令和2年2月9日(日)	高谷史郎(出品作家)、長谷川祐子(キュレーター、東京都現代美術館参事、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授)	190
	シンポジウムA. 時間を想像する	令和2年2月8日(土)	パネリスト:第1部 小森はるか+瀬尾夏美(出品作家)、ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ(出品作家) 第2部 木村友紀(出品作家)、中谷礼仁(早稲田大学教授、建築史家) モデレーター:田坂博子(第12回恵比寿映像祭ディレクター、当館学芸員)	116
	シンポジウムB. [日仏会館共催企画]「東京1964年オリンピック記録映像」上映と講演 映像によるタイムトラベル	令和2年2月14日(金)	パネリスト:中森邦男(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会参事)、丹羽美之(東京大学大学院情報学環准教授) 司会/モデレーター:篠田勝英(日仏会館常務理事、文化事業委員長)、岡村恵子(恵比寿映像祭キュレーター、当館学芸員)	48
	ライブ・イベント [フェスティバル連携] 恵比寿映像祭×デジタル・ショック共催企画] SKYGGE×Ai.step 日仏アーティスト共演:AIと人間による音と映像のライブパフォーマンス	令和2年2月22日(土)	SKYGGE(プロデューサー、作曲家)、Ai.step [Kakuya Shiraiishi, Scott Allen] (パフォーマンス・ユニット) ブレ・トーク司会:四方幸子(キュレーター)	118
	YEBIZO MEETSトーク&ワークショップ I POSTとTRANS BOOKSの主宰者に聞く アートブックを通じた新しい動きとは	令和2年2月12日(水)	中島祐介(POST、TOKYO ART BOOK FAIR)、畑ユリエ・飯沢美央・萩原俊矢(TRANS BOOK)	22
	YEBIZO MEETSトーク&ワークショップ II こどもおとなも哲学セッション! 作品をみて、感じて、いろいろな「ふしぎ」を考えよう!	令和2年2月11日(火・祝)	山森祐毅(哲学研究者、大阪大学COデザインセンター特任講師)	34
	YEBIZO MEETSトーク&ワークショップ III フェスティバルを自分の言葉で伝えよう! 書くヒントを見つける90分	令和2年2月15日(土)	アンドリュー・マクル(アトラライター、編集者)	10
YEBIZO MEETSトーク&ワークショップ IV アイドントノウと一緒に考える! 「フェスティバルの楽しみ方ガイド」	令和2年2月19日(水)	角田崇・治田将之・青木亮作・田久保彬(idontknow.tokyo)(プロダクトデザイナー集団)	16	
YEBIZO MEETSトーク&ワークショップ V やさしい言葉で、映像の今を考える〜ジャーナリストの堀潤を迎えて	令和2年2月21日(金)	講師:堀潤(ジャーナリスト) 聞き手:タカハシケンジ(恵比寿新聞)	33	
参加人数合計 7,299人				

【誘致展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
大石芳野写真展 戦禍の記憶	[対談] 大石芳野 x 池内了	平成31年4月20日(土)	大石芳野(出品作家)、池内了(天文学者)	227
第43回 2018 JPS 日本写真家協会展	「気鋭の写真家による第44回2019JPS展入賞作品講評!」	令和元年5月18日(土)	榎並悦子、大西みつぐ、清水哲朗	198
世界報道写真展2019	いとうせいこう 国境なき医師団 ~人道危機の現場で、人々に寄り添うこと~	令和元年7月27日(土)	いとうせいこう(作家・クリエイター)、国境なき医師団海外派遣スタッフ	184
写真新世紀 2019	グランプリ選出公開審査会、表彰式	令和元年11月8日(金)		181
	レクチャー	令和元年11月9日(土)	ポール・グラハム(写真家)	112
	トークショー「ポートレートのかげやき」	令和元年11月9日(土)	リネケ・ダイクストラ氏(写真家) サンドラ・フィリップス氏(SF MoMa名誉キュレーター)	143
	ポートフォリオ・レビュー	令和元年11月10日(日)	2019年度写真新世紀審査員、当館学芸員	59
中野正貴写真展「東京」	[対談] 中野正貴 x リリー・フランキー	令和元年12月8日(日)	中野正貴(出品作家)、リリー・フランキー(文筆家・俳優)	182
参加人数合計 1,286人				

【その他講演会等】

展示会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第3回アーカイブ研究講習会	メディアアート作品のアーカイブ：インスタレーションからインタラクションへ	令和元年10月31日(木)	久保田晃弘(多摩美術大学教授・同大学アートアーカイブセンター所長)	19
保存科学勉強会	ゲルを使用した文化財のクリーニング方法	令和元年11月13日(水)	ビエロ・バリオーニ(フィレンツェ大学教授・コロイドおよびナノサイエンス(CSGI) 国立コンソーシアムディレクター)	16
参加人数合計 35人				

ギャラリートーク

【収蔵展・自主企画展】

展示会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展示会	開催日	講師等	参加人数
志賀理江子 ヒューマン・スプリング	平成31年4月12日(金)・4月26日(金)	丹羽晴美(担当学芸員)	70
写真の起源 英国	平成31年4月5日(金)・4月19日(金)・4月29日(月・祝)・5月3日(金・祝)・5月4日(土・祝)・5月5日(日・祝)	三井圭司(担当学芸員)	436
宮本隆司 いまだ見えざるところ	令和元年5月24日(金)・6月14日(金)・28日(金)・7月12日(金)	藤村里美(担当学芸員)	113
TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語	令和元年5月17日(金)・6月7日(金)・21日(金)・7月5日(金)・19日(金)・26日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	198
嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界	令和元年8月2日(金)・16日(金) <サマーナイト・アーティストトーク>	嶋田忠(出品作家)	233
	令和元年9月16日(月・祝) <アーティスト・ギャラリートーク>	嶋田忠(出品作家)	217
	令和元年7月26日(金)・8月9日(金)・23日(金)・9月13日(金)	関次和子(担当学芸員)	169
TOPコレクション イメージを読む 写真の時間	令和元年8月16日(金)・9月6日(金)・20日(金)・10月4日(金)・18日(金)・11月1日(金)	榎田言葉(担当学芸員)	187
しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像	令和元年8月23日(金) <対話型作品鑑賞会>	榎田言葉(担当学芸員)	22
	令和元年8月16日(金)	ズザンナ・ヤニン(出品作家)、岡村恵子(担当学芸員)	27
イメージの洞窟 意識の源を探る	令和元年8月30日(金)・9月6日(金)・20日(金)・10月4日(金)	岡村恵子(担当学芸員)	108
	令和元年10月11日(金)・15日(月)・25日(金)・11月8日(金)・22日(金)	山田裕理(担当学芸員)	124
山沢栄子 私の現代	令和元年11月15日(金)・12月6日(金)・20日(金)・令和2年1月3日(金)・17日(金)	鈴木佳子(担当学芸員)	173
至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16	令和元年12月13日(金)・27日(金)・令和2年1月4日(土)・5日(日)・10日(金)・17日(金)・24日(金)	武内厚子(担当学芸員)	249
	令和元年12月5日(木)・26日(木) 令和2年1月9日(木) <対話型作品鑑賞会>	武内厚子(担当学芸員)	20
第12回恵比寿映像祭 時間を想像する 初めてでも楽しめる!フェスティバルの全体像を掴もうツアー [60分/日本語]	令和2年2月11日(火・祝)・20日(木)・23日(日・祝)	NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] /大隈理恵、東海林慎太郎、藤井理花、青木祥子	43
第12回恵比寿映像祭 時間を想像する 中国語で巡るガイドツアー [60分/中国語]	令和2年2月13日(木)・16日(日)	戴周杰(東京都写真美術館インターン)	29
第12回恵比寿映像祭 時間を想像する 変性意識と宇宙 時間の旅を巡るガイドツアー[60分/日本語]	令和2年2月16日(日)	ロジャー・マクドナルド(MADプログラム・ディレクター/AITキレレーター)	15
参加人数合計 2,621人			

【誘致展】

展示会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展示会	開催日	講師等	参加人数
大石芳野写真展 戦禍の記憶	平成31年4月13日(土)・令和元年5月4日(土・休)	大石芳野(出品作家)	279
第44回2019 JPS展	令和元年5月19日(日)・25日(土)・26日(日)・30日(木)・6月1日(土)・2日(日)	26日:小澤太一氏、清水哲朗氏 それ以外:展示会担当者	205
写真新世紀 2019	令和元年10月19日(土)	第一部 2019年度佳作受賞者/第二部 2019年度優秀賞7名と2018年度グランプリ受賞者	120
中野正真写真展「東京」	令和元年11月24日(日)・30日(土)・12月1日(日)・15日(日)・22日(日)・28日(土)・令和2年1月12日(日)・19日(日)・26日(日)	中野正真(出品作家)	1,450
参加人数合計 2,054人			

手話通訳付きギャラリートーク

収蔵展・自主企画展において実施している「担当学芸員によるギャラリートーク」のうち以下の日程は手話通訳付きとして実施した。前頁のギャラリートーク全体の参加人数のうち、手話通訳を必要とした方の人数は以下のとおり。

展覧会	開催日	トーク担当	手話通訳者	参加人数
宮本隆司 いまだ見えざるところ	6月28日(金)	藤村里美(担当学芸員)	瀬戸口裕子、山崎薫	4
TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語	6月7日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	瀬戸口裕子、長谷川美紀	4
	7月5日(金)		瀬戸口裕子、山崎薫	2
	7月26日(金)		瀬戸口裕子、長谷川美紀	7
嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界	8月16日(金)	嶋田忠(出品作家)	瀬戸口裕子、長谷川美紀	8
TOPコレクション イメージを読む 写真の時間	9月6日(金)	榎田言葉(担当学芸員)	瀬戸口裕子、長谷川美紀	4
	10月4日(金)	榎田言葉(担当学芸員)	瀬戸口裕子、山崎薫	4
	11月1日(金)	榎田言葉(担当学芸員)	瀬戸口裕子、山崎薫	4
しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像	9月6日(金)	岡村恵子(担当学芸員)	瀬戸口裕子、長谷川美紀	2
	9月20日(金)		瀬戸口裕子、山崎薫	4
イメージの洞窟 意識の源を探る	11月22日(金)	山田裕理(担当学芸員)	瀬戸口裕子、長谷川美紀	0
山沢栄子 私の現代	12月6日(金)	鈴木佳子(担当学芸員)	長谷川美紀、山崎薫	1
	12月27日(金)	武内厚子(担当学芸員)	瀬戸口裕子、山崎薫	5
	1月10日(金)		長谷川美紀、山崎薫	14
至近距離の宇宙 日本の新進作家Vol.16	1月17日(金)		瀬戸口裕子、長谷川美紀	11
	参加人数合計 74人			



東京都写真美術館ボランティア

1年間を通して、パブリックプログラム、スクールプログラムなどで活動した。内容としては、暗室での現像やアニメーション制作の補助、対話型鑑賞のためのファシリテーション等でのサポートであった。また、平成31年度も新規ボランティアの募集を行い、10月より新たなボランティアメンバーが加わった。ボランティア全員が各プログラムで円滑かつ自主的に活動できるよう、制作および鑑賞に関する新規ボランティア基礎研修を行ったほか、継続ボランティアが普段の内容を学び直す基礎研修を実施した。そのほか研修として、暗室およびアニメーション制作プログラム、対話型鑑賞のためのファシリテーションの自主研修会を開催するとともに、充実したコミュニケーションおよび対話型鑑賞についての理解をより深めることを目的とし、講師を招いた研修などを開催し、スキルアップに努めた。

なかでも、11月に実施したボランティア研修会では、対話型作品鑑賞の第一人者である福のり子氏を外部講師として招いた。本研修が貴重な機会であることから財団の他施設のボランティアにも研修機会を提供した。

1 登録者数

平成30年度からの更新登録者：67名

新規登録者：11名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 35回

1ヶ月平均 2.9回

のべ 270人

(ただしボランティア研修会をのぞく)

年間一人あたり 3.5回

(1) パブリックプログラム活動 16回

(2) スクールプログラム活動 19回

3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 7回 のべ参加者数 94人

令和元年5月30日(木) フォローアップ研修会

講師：当館スタッフ

令和元年9月19日(木) 新規ボランティア研修会 第1回 Aチーム

講師：当館スタッフ

令和元年9月22日(日) 新規ボランティア研修会 第1回 Bチーム

講師：当館スタッフ

令和元年9月29日(日) 新規ボランティア研修会 第2回

講師：当館スタッフ

令和元年11月7日(木) フォローアップ研修会

講師：当館スタッフ

令和元年11月17日(日) フォローアップ研修会

講師：当館スタッフ

令和元年11月24日(日) 美術館等におけるコミュニケーションについて

講師：福のり子(京都造形芸術大学教授、同大アート・コミュニケーション研究センター所長)

(2) ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放) 9回

のべ参加者数 66人

令和元年5月25日(土)、6月8日(土)、6月15日(土)、7月27日(土)、7月28日(日)、11月7日(木)、11月17日(日)、12月7日(土)、令和2年1月19日(日)

(3) ボランティア連絡会 2回 のべ参加者数 32人

令和元年5月25日(土)、9月29日(日)



博物館実習(学芸員実習)

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館又は博物館相当施設での実習により修得するものとされる。

当館の博物館実習(学芸員実習)は大学生を対象に、将来的な学芸員の養成や美術館の仕事への意識啓発を目的として、学芸員を中心とした各部署の業務を体験的に研修してもらう機会である。平成31年度は教育普及プログラム、展覧会企画、作品保存などの講義、対話型鑑賞の演習を実施し、まとめとして課題発表を行った。

(1) 受入日程：令和元年8月21日(水)～9月6日(金)で10日間

(2) 受入人数：12名

(3) 受入大学：筑波大学、富山大学、東北芸術工科大学、青山学院大学、女子美術大学、法政大学、成城大学、中央大学、学習院大学、明治学院大学、東京造形大学

収集の基本方針

平成元(1989)年2月3日(昭和63年度)策定

写真作品(オリジナル・プリント)を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点収集作家(17名、五十音順)秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1.出版物(写真集、専門書、雑誌)については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料(図録、チケット等)を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

[映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

[作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上
内訳:写真作品(国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上)

写真作品収集の指針 平成18(2006)年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会(自主展、収蔵展)で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点収集作家(21人、五十音順)荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博
- 9.写真作品収集の新指針7に基づく第三期重点収集作家(14人、五十音順)、平成30(2018)年11月21日策定
江成常夫、尾仲浩二、金村修、川内倫子、鬼海弘雄、鈴木理策、瀬戸正人、鷹野隆大、長島有里枝、ホンマタカシ、松江泰治、宮崎学、本橋成一、米田知子

平成31年度 東京都写真美術館
作品資料収集方針

1 東京都購入

(1) 購入作家及び点数

25作家239点

(2) 考え方

東京都写真美術館「収集の基本方針」に基づき以下の作品収集を行った。

① 重点作家作品

第一期：土田ヒロミ、森山大道 第三期：瀬戸正人、ホンマタカシ

② 将来の写真・映像文化を担う若手作家作品

相川 勝、藤安 淳、井上佐由紀、齋藤陽道、濱田祐史

③ 芸術性、文化性の高い国内作家作品

伊志嶺隆、比嘉豊光、澤田知子、奈良美智

④ 芸術性、文化性の高い海外作家作品

アンダース・エストドローム

⑤ 代表的かつ芸術価値の高い国内外映像作品

真鍋 博、飯村隆彦、エキソニモ 外7作家

2 東京都写真美術館購入

(1) 購入作家及び点数

7作家81点

(2) 考え方

東京都写真美術館「収集の基本方針」に基づき以下の作品収集を行った。

① 国内で活躍が著しく、写真美術館の自主企画展で取り上げた作家作品

嶋田 忠

② 希少性の高い黎明期の初期写真

下岡蓮杖 外4作家

③ 代表的かつ芸術価値が高く、当館の自主企画展でとりあげた海外映像作品

フィオナ・タン

3 寄贈案件

20件 240点 購入及び展覧会開催に伴う寄贈

4 寄託案件

1件 23点 希少性の高い昭和初期ヴィンテージプリントの寄託

平成31年度収集点数：560点

【内訳】国内写真作品：464点 海外写真作品：11点 映像作品資料：65点 写真資料：20点

東京都写真美術館コレクション点数：35,891点

【内訳】国内写真作品：23,703点 海外写真作品：5,758点 映像作品資料：2,535点 写真資料：3,895点

【東京都購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
相川 勝	《cloth, container, hose, plastic bottle》、《#selfie》より、《landscape》より、《layer》より	ゼラチン・シルバー・プリント		9	2019	平成31年度新進作家展出品作品
伊志嶺 隆	《光と陰の島》、《72年の夏》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	255×252	10	1971-87	令和2年度「沖縄」展出品予定作品
井上 佐由紀	《私は初めてみた光を覚えていない》より	発色現像方式印画	1500×1000	5	2014	平成31年度新進作家展出品作品
齋藤 陽道	《感動》より、《光をはらむシャボン玉》	発色現像方式印画		122	2011-13	平成31年度新進作家展出品作品
澤田 知子	これ、わたし	発色現像方式印画	250×186 (each)	36点組	2010	令和2年度個展出品予定作品
瀬戸 正人	《Cesium》より	インクジェット・プリント	1000×1600	10	2013	令和2年度「瀬戸正人」展出品予定作品
土田 ヒロミ	《フクシマ 2011-2017》	インクジェット・プリント	1100×1100	3	2011-17	第一期重点収集作家
奈良 美智	NY drawing/Yogyakarta cat	インクジェット・プリント	449×449 (each)	2点組	2010-11	コレクション展出品予定作品
濱田 祐史	《Watermark》より	単塩紙		8	2019	平成31年度新進作家展出品作品
PUGMENT× ホンマタカシ	《Images》より	発色現像方式印画	900×600	7	2019	平成31年度「写真とファッション」展出品作品
比嘉 豊光	《赤いゴーヤ》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	457×559	19	1970-72	令和2年度「沖縄」展出品予定作品
藤安 淳	《empathize》より	発色現像方式印画	600×745	6	2011	平成31年度新進作家展出品作品
森山 大道	《三沢の犬》、《無言劇》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)		9	1971	第一期重点収集作家
Edström, Anders	《Spread》	発色現像方式印画	640×1000	10	2019	平成31年度「写真とファッション」展出品作品
飯村 隆彦	Circle and Square	フィルムパフォーマンス作品		1	1981	令和2年度以降映像展および恵比寿映像祭出品予定作品
エキソニモ	《exonemo.com/fireplace》《Click and Hold》《Heavy Body Paint》	シングルチャンネル・ビデオ他		5	2014-19	第12回恵比寿映像祭、令和2年度収蔵映像展出品予定作品
土田ヒロミ	相馬二遍返し	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/15分	1	2011-17	第一期重点収集作家

作品収集実績

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
真鍋博	時間	シングルチャンネル・ビデオ (オリジナル35ミリフィルムからデジタル変換)	白黒/サウンド/7分38秒 サウンド=高橋悠治	1	1963	第12回恵比寿映像祭出品作品
八木良太	〈Animated Clock〉より	驚き盤		5	2013	平成31年度新進作家展出品作品
Baas, Maarten	Sweepers clock	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サイレント/12時間	1	2009	第12回恵比寿映像祭出品作品
Janin, Zuzanna	Walka (Fight)	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/30分	1	2001	平成31年度映像展「ポーランド女性と映像」出品作品
Marcolla, Jolanta	Kiss	シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムからデジタル変換)	白黒/サイレント/3分	1	1975	平成31年度映像展「ポーランド女性と映像」出品作品
LL, Natalia	Consumer Art	シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムからデジタル変換)	白黒・カラー/サイレント/ 16分1秒	1	1975	平成31年度映像展「ポーランド女性と映像」出品作品
Breguła, Karolina	OCH PROFESORZE! (Ah, Professor!)	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/6分	1	2018	平成31年度映像展「ポーランド女性と映像」出品作品
Robakowski, Józef	Z mojego okna 1978-99 (From My Window 1978-99)	シングルチャンネル・ビデオ	白黒/サウンド/19分9秒	1	2000	平成31年度映像展「ポーランド女性と映像」関連作品
合計				239		

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
日下部 金兵衛	(キセルを持つ法被の女性)	鶏卵紙に手彩色	265×206	1	1890	平成31年度「日本初期写真史 関東編」出品作品
嶋田 忠	〈ヤマセミ〉より	インクジェット・プリント	408×611	10	2009-14	平成31年度「嶋田忠 野生の瞬間」出品作品
下岡 蓮杖	幕末明治期名刺判写真	鶏卵紙	87×56	5	1863-75	平成31年度「日本初期写真史 関東編」出品作品
田中 武	明治二十一年撮影 全東京展望写真帖	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	420×420	14	1932	平成31年度「日本初期写真史 関東編」出品作品
作家不詳	東京向島	鶏卵紙に手彩色	204×264	1	1895	平成31年度「日本初期写真史 関東編」出品作品
作家不詳	日本の人々の写真帖	鶏卵紙に手彩色	80×50	49	1864-76	平成31年度「日本初期写真史 関東編」出品作品
TAN, Fiona	News From the Near Future	ビデオ・プロジェクション	カラー/サウンド/9分30秒 投影サイズ可変	1	2003	平成31年度「イメージの洞窟」展出品作品
合計				81		

*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

【寄贈】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
宮本 隆司	〈建築の黙示録〉より《サッポロビール 恵比寿工場》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	397×504	59	1990	平成31年度「宮本隆司」展出品作品、作家より寄贈
福森 白洋	雪折笹	プロムオイル印画	228×429	3	1923	所蔵者より寄贈
伊志嶺 隆	〈光と陰の島〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	255×252	10	1986-87	購入に伴う寄贈
土田 ヒロミ	〈フクシマ 2011-2017〉	インクジェット・プリント	1100×1100	1	2011	購入に伴う寄贈
広川 泰士	〈BABEL〉より	インクジェット・プリント	1560×1935	5	2011	作家より寄贈
瀬戸 正人	〈Cesium〉より	インクジェット・プリント	1000×1600	10	2013	購入に伴う寄贈
志賀 理江子	〈ヒューマン・スプリング〉より	発色現像方式印画	600×900	12	2019	平成30年度「志賀理江子」展出品作品、作家より寄贈
濱田 祐史	〈Primal Mountain〉、〈Wartermark〉より	発色現像方式印画	265×330	31	2011	購入に伴う寄贈
井上 佐由紀	〈私は初めてみた光を覚えていない〉より	発色現像方式印画		29	2011-19	購入に伴う寄贈
相川 勝	〈landscape〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	883.9×497.8	2	2019	購入に伴う寄贈
藤安 淳	〈empathise〉より	発色現像方式印画	745×600	5	2011-18	購入に伴う寄贈
嶋田 忠	〈ヤマセミ〉より	インクジェット・プリント	408×611	6	2009-14	購入に伴う寄贈
齋藤 陽道	〈星の情景〉〈せかいさがし〉より	発色現像方式印画	1500×1200	1	2019	購入に伴う寄贈
NAKAGAWA, Osamu James	〈#036〉〈ガマ：間〉より	和紙にインクジェット・プリント	600×900	1	2015	平成31年度「イメージの洞窟」展出品作品、作家より寄贈
福森 白洋	熊笹	プロムオイル印画	305×371	20	1927	所蔵者より寄贈
真鍋博	MARCH	シングルチャンネル・ビデオ (オリジナル16ミリフィルムからデジタル変換)	白黒/サウンド/3分 サウンド=秋山邦晴	1	1963	購入に伴う寄贈
エキソニモ	《Kiss or Dual Monitors》《The Kiss》	インスタレーション	サイズ可変	2	2017-19	購入に伴う寄贈
飯村 隆彦	《くず》ほか	16ミリフィルム		40	1962ほか	購入に伴う寄贈
澤田 知子	影法師	シングルチャンネル・ビデオ	モノクロ/サイレント/ループ	1	2018	購入に伴う寄贈
ZAKARIA, Haythem	Interstices/Opus I-Opus II	インスタレーション (2つの映像・写真によるインスタレーション)	1500×600,1500×450/4K, 1920×1080px/22分09秒	1	2018	第21回文化庁メディア芸術祭 アート部門大賞受賞作品 作家関係組織より寄贈
合計				240		

【寄託】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
中山 岩太	《定ぎ》ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	144×106	23	1930-39	所蔵機関からの寄託
合計				23		

平成31年度新収蔵作品の紹介

東京都購入案件



相川勝 〈landscape〉より 2019 ゼラチン・シルバー・プリント/木製パネル



伊志嶺隆 〈光と陰の島〉より 《鳩間島》 1986 ゼラチン・シルバー・プリント



井上佐由紀 〈私は初めてみた光を覚えていない〉より 2014 発色現像方式印画



齋藤陽道 〈せかいさがし〉より 《光をはらむシャボン玉》 2013 発色現像方式印画



澤田知子 《これ、わたし》より 2010 発色現像方式印画



瀬戸正人 〈Cesium〉 2013 インクジェット・プリント



土田ヒロミ <フクシマ2011-17年>より 《野沢の溜池（福島県相馬郡飯館村関沢）》
2012-13 インクジェット・プリント



奈良美智 <NY drawing/Yogyakarta cat>より 2010-11 インクジェット・プリント



濱田祐史 <Primal Mountain>より 2011 発色現像方式印画



PUGMENT×ホンマタカシ <Images>より 2019 発色現像方式印画



比嘉豊光 <赤いゴーヤ>より 《嘉手納弾薬庫前全軍労》 1970-72 ゼラチン・シルバー・プリント

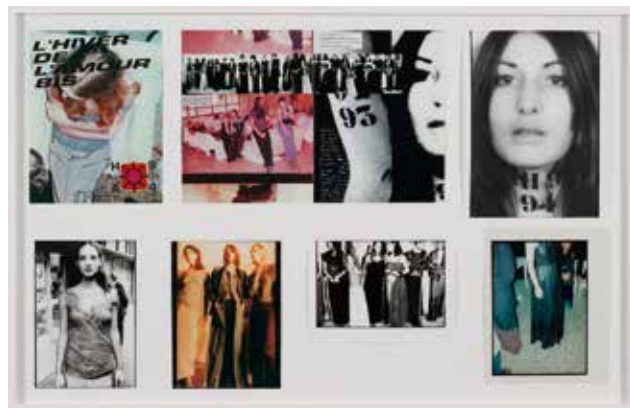


藤安淳 <empathize>より 2011 発色現像方式印画

平成31年度新収蔵作品の紹介
東京都購入案件



森山大道 《三沢の犬》 1971 ゼラチン・シルバー・プリント



アンダース・エドストローム 《Spread 21》 2019 発色現像方式印画



飯村隆彦 《Circle and Square》 1981 フィルムパフォーマンス



エキソニモ 《Fireplace》 2014 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サイレント、5分50秒



真鍋博 《時間》 1963 シングルチャンネル・ビデオ、白黒、サウンド(高橋悠治)、7分38秒(35ミリフィルムからデジタル変換)



八木良太 〈Animated Clock〉より 2013 驚き盤



ズザンナ・ヤニン 《闘い》 2001 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、9分



マーティン・パース 〈リアル・タイム〉より 《スウィーパーズ・クロック》 2009 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サイレント、12時間



ヨランタ・マルコラ 《キス》 1975 シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムからデジタル変換)、白黒、サイレント、3分



ナタリア・LL 《消費者アート》 1975 シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムからデジタル変換)、白黒/カラー、サイレント、6分1秒



カロリナ・ブレグワ 《嗚呼、教授!》 2018 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、6分



ユゼフ・ロバコフスキ 《私の窓から 1978-1999》 2000 シングルチャンネル・ビデオ、白黒、サウンド、19分9秒

平成31年度新収蔵作品の紹介
 東京都写真美術館購入案件



嶋田忠 〈ヤマセミ〉より 《瞳に写る川の風景》 2009_14 インクジェット・プリント



下岡蓮杖 《腰掛ける女性二人像》 文久3年～明治8年頃 鶏卵紙



田中武あるいは江崎礼二 『明治二年撮影 全東京展望写真帖』より 《(足場を組んだニコライ教会堂)》 撮影：明治22年 複写：昭和7年 ゼラチン・シルバー・プリント



作家不詳 《(東京向島)》 明治中期頃 鶏卵紙に手彩色



作家不詳 《(日本の人々の写真帖)》より 《(頭巾をかぶる侍)》 文久3年～明治8年頃 鶏卵紙に手彩色



フィオナ・タン 《近い将来からのたより》 2003 ヴィデオ・プロジェクション、カラー／サウンド／9分30秒

【東京都写真美術館図録論文】

石田哲朗

「イメージを読む、物語を見る一場所をめぐる4つの物語」『TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語』展図録、東京都写真美術館、2019年、pp.8,12-14,38-39,66-67,92-94.

伊藤貴弘

「写真とファッション」『写真とファッション』展図録、東京都写真美術館、2020年、pp.93-96

岡村恵子

「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像：1970年代から現在へ」『しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像：1970年代から現在へ』展図録、東京都写真美術館、2019年、pp.11-15

鈴木佳子

「山沢栄子とアメリカ近代写真」『山沢栄子 私の現代』展図録、赤々舎、2019年、pp.190-193

関次和子

「嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」『嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界』展図録、東京都写真美術館、2019年、pp.177-180

武内厚子

「至近距離の宇宙」『至近距離の宇宙 日本の新進作家vol.16』展図録、東京都写真美術館、2019年、pp.8-16

田坂博子

第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」展リーフレット、東京都写真美術館、2020年、pp.12-15

藤村里美

「旅の目的地」『宮本隆司 いまだ見えざるところ』展図録、平凡社、2019年、pp.149-155

柘田言葉

「写真の時間」『TOPコレクション イメージを読む 写真の時間』展図録、東京都写真美術館、2019年、pp.8-16

三井圭司

「日本の初期写真史における関東」（「日本初期写真史 関東編」展図録、東京都写真美術館、2020年、pp.171-174）

【東京都写真美術館紀要No.20】

関次和子

「山岳写真家・穂苅貞雄 その生涯と昭和の山岳写真家たち」pp.5-13

松澤優

「〈アクシデント〉シリーズにおける、「写真家」と「読者」の演出」pp.15-23

【寄稿】

伊藤貴弘

「沖縄のアーティストが向き合う『いま』と、それをかたちづくる『過去』。伊藤貴弘評『作家と現在』『美術手帖』（ウェブサイト）『The 3 wise tellers』『Lula JAPAN』第11号、2020年、セレック、p.113
「選評」The Reference Asia（ウェブサイト）

遠藤みゆき

「『酒の害』津田仙のこと」『如是我聞録 丹尾安典先生退職記念文集』、『如是我聞録』編集委員会、2020年2月、pp.235-237
「写真とジェンダー」「写真とSNS」Artwords, artscape（ウェブサイト）2020年3月1日号

関次和子

「解説 引き継がれるナチュラルリストの魂」『安曇野のナチュラルスト 田淵行男』、近藤信行著、山と溪谷社、2019年6月、pp.410-417
「谷口能隆『十間坂』に寄せて」『Dead End「十間坂」〈手宮地区一小樽市〉』、谷口能隆著、case publishing、2020年3月、pp.84-85

武内厚子

「デジタル全盛期における、暗室体験プログラムの可能性」『教育美術』2019年5月号（923号）公益財団法人教育美術振興会、pp.14-15

田坂博子

「審査講評」「贈賞理由作品評」第23回文化庁メディア芸術祭（ウェブサイト）

藤村里美

「写真芸術の世界 宮本隆司「人の営み」を写して」『版画芸術』184号、2019年、阿部出版、p.101

梶田言葉

「高橋裕子教授・有川治男教授 退職記念コラム集」『哲学会誌』第43号、2019年5月、学習院大学哲学会、p.44

山田裕理

「女性写真家の誕生をたどる—『女子写真伝習所』の設立をめぐる—」『如是我聞録 丹尾安典先生退職記念文集』、『如是我聞録』編集委員会、2020年2月、pp.141-149

【学会発表】

山口孝子

白岩洋子、山口孝子「アガロースゲルを利用した写真(鶏卵紙)への処置」、一般社団法人文化財保存修復学会第41回大会、帝京大学八王子キャンパス、2019年6月23日

【講演会・シンポジウム等】

石田哲朗

「第2回ぎふ美術展 クロストーク 石田哲朗×前田真二郎：写真表現の過去・現在」第2回ぎふ美術展 作品講評会、セラミックパークMINO、2019年8月31日

「筑波大学付属駒場中・高等学校 第46回教育研究会」研究協議会助言者、筑波大学付属駒場中・高等学校、2019年11月23日

伊藤貴弘

Lecture, "Introducing about Tokyo Photographic Art Museum & The Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions", International Photography Symposium 2019-Daegu Photo Biennale, Daegu Arts Center, Daegu, Korea, May 9, 2019

「リカルド・ロッガンと安村崇によるトーク [目立たないものの存在について]」(モデレーター)、ゲーテ・インスティトゥート東京、2019年9月14日

『『千葉の新進作家 vol.1 志村信裕 一残照—』展キュレータートーク『これからの新進作家展』、千葉県立美術館、2019年9月23日
「高橋恭司『World's End 写真はいつも世界の終わりを続ける』展 高橋恭司×伊藤貴弘トークイベント」、nap gallery、2019年9月28日

岡村恵子

「新・今日の作家展2019 対話のあとさき」関連イベント(出品作家・守章との鼎談)「二核的な同一主体の隔たりについて」、横浜市民ギャラリー、2019年10月6日

関次和子

「トマス・ファルカス写真展」関連イベント(田村彰英、ジョアン・ファルカス、キコ・ファルカスとの鼎談)、駐日ブラジル大使館、2019年10月3日

「ネイチャーフォトの昨今」講演会、インタークロス・クリエイティブ・センター、札幌、2019年10月5日

武内厚子

「筑波大学付属駒場中・高等学校 第46回教育研究会」研究協議会助言者、筑波大学付属駒場中・高等学校、2019年11月23日

田坂博子

Round table#2 "Creation versus Creativity: Conceiving the artistic thought", International Market for Digital Art (MIAN) 2019, Montreal, Canada, June 13, 2019

「キュレーターズトーク：シリーズ<映像+展示を考察する>(3)」一般社団法人アーツプラス、2020年1月6日

蜘蛛と箒企画連続講座「インターナショナル・アート・スタディーズ」、武蔵野プレイス、2020年3月1日

藤村里美

アーティストトーク「歴史の痕跡をめぐる」、登壇者(米田知子)、国立新美術館、2021年1月18日

山田裕理

「渡部さとの『じゃない写真』出版イベント」(渡部さとの×山田裕理)銀座蔦屋書店、2020年2月5日

【委員・審査員等】

石田哲朗

「第2回ぎふ美術展」写真部門審査員、2019年8月2日、セラミックパークMINO

伊藤貴弘

Jury for the Reference Asia: Photo Prize 2019、「IMA STEP OUT! 2019」レビュワー、第53回富士市展第2期写真の部審査員、平成31年度(第70回)東京都立高等学校定時制通信制芸術祭写真部門審査委員

岡村恵子

愛知県美術館美術品収集委員会・オリジナル映像部会委員、横浜市美術資料価額評価委員会委員

関次和子

PHOTO ONE TAIPEIポर्टフォリオレビュー、2019年4月25日、26日

第55回神奈川県美術展委員、審査員〈写真部門〉
「HOKKAIDO PHOTO FESTA 2019」ポートフォリオレビュー、
2019年10月5日、6日、インタークロス・クリエイティブ・センター、
札幌
高知県立美術館運営委員会委員
第2回水道局フォトコンテスト審査員(二次)
目黒観光写真コンクール審査員
「ライカ・オスカー・バルナックアワード2020」候補者推薦委員

武内厚子

文化庁「令和元年度 障害者による文化芸術活動推進事業」助
成事業 美術館における聴覚障害者の鑑賞環境整備事業委員

田坂博子

「日産アートアワード2020」候補者推薦委員、令和元年度(第70
回)芸術選奨(メディア芸術部門)推薦委員、第23回文化庁メデ
ィア芸術祭アート部門審査委員、「アークスプロジェクト2019いばら
き アーティスト・イン・レジデンスプログラム招聘アーティスト」
選考委員

藤村里美

東京国立近代美術館作品評価員

山口孝子

日本写真保存センター諮問委員、国立歴史民俗博物館資料保存
環境検討委員会委員

山田裕理

国際交流基金「令和2年度海外助成プログラム」審査員

【インターン】

東京都写真美術館では、平成20年度からインターン制度を導入し
ている。平成31年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、
展覧会事業補助、作品管理業務補助等を担当し、将来の美術館
活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

松澤 優

担当業務：「宮本隆司」展、「山沢栄子」展、「白川義員」展、「森
山大道」展、「石元泰博」展(展覧会事業補助)
指導学芸員：藤村里美
期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

橋詰 知輝

担当業務：パブリックプログラム、スクールプログラム(教育普及事
業運営補助)、その他展覧会事業補助
指導学芸員：武内厚子

期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

戴 周杰

担当業務：「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像」、「第
12回恵比寿映像祭」(展覧会事業補助)
指導学芸員：岡村恵子
期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

調査研究・普及活動 (アーカイブ研究会)

映像音響資料の保存管理および各種アーカイブ構築の技術と実践
に係る専門機関や教育機関、研究者、技術者および関連企業等
との研究および情報交流の機会として、アーカイブ研究会を、平
成29年度より毎年定期的実施している。3年目となる今回は、メ
ディアアート作品の保存について講演とディスカッションを行った。

平成31年度アーカイブ研究講習会

「メディアアート作品のアーカイブ：インスタレーションからインタラ
クションへ」
令和元年10月31日
講師：久保田晃弘(多摩美術大学教授、アートアーカイブセンター
所長)
参加者数：19名

保存科学研究室勉強会

「ナノ素材を使用した修復への新しいアプローチ」
令和元年11月13日
講師：ピエロ・バリオーニ〔フィレンツェ大学科学科教授、コロイド
及びナノサイエンスセンター(CSGI)のディレクター〕
参加者数：16名

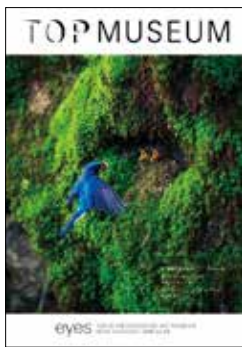
調査研究・普及活動 (プリントスタディールーム)

東京都写真美術館では、研究のために直接作品等を閲覧する特
別閲覧(プリントスタディールーム)制度を設けている。

平成31年度は「にぎわいのある美術館づくり」を年間テーマに掲げ、多くのお客様に来館していただけるよう、展覧会、上映、教育普及、図書室等の活動をタイムリーにわかりやすく紹介するとともに、さまざまなメディアを使って当館の事業を幅広くアピールした。特に、新しいSNSメディアの利用や、スタンプラリーの実施、他館との相互割引など美術館回遊イベントの開催などによって、来館者を増加させるための広報を積極的に実施した。

1 広報誌「写真美術館ニュースeyes (アイズ)」発行

(vol.99～vol.101) 季刊、発行部数：各号30,000部
 <巻頭記事・メインテーマ>
 99号「嶋田忠 野生の瞬間」
 100号「山沢栄子 私の現代」
 101号「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」、2020年度ラインナップ発表



左) 99号 右) 100号

2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会について日英のプレスリリースを制作し、展覧会開催の2ヶ月前を目途に、マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に配布した(約730件)。同時に美術館を中心に、A4チラシとB3ポスターの配布をおこなった(約330件)。チラシ・ポスターは館内および財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や「あ・ら・かるちゃー文化施設運営協議会」関係施設にも配布した。

3 プレス対応

平成31年度は、展覧会、館の施設紹介、教育普及事業などに関する取材依頼に多く対応した。プレスには、バラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家や担当学芸員へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するために柔軟に対応した。令和2年2月には記者ブリーフィングを開催し、次年度の展覧会ラインナップをいち早く発表した(詳細は52頁)。また、広報東京都、ART NEWS TOKYO、TOKYO DIGITAL MUSEUM、Tokyo Art Navigation、Tokyo Tokyo Festivalなど、東京都、財団関係の掲載メディアへの情報提供もおこなった。

a 広報記録

展覧会名(テレビ・ラジオ、新聞、雑誌)
 「写真の起源 英国」(2件、109件、38件)

「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」(2件、87件、61件)
 「TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語」(0件、66件、40件)
 「宮本隆司 いまだ見えざるところ」(0件、34件、27件)
 「嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」(2件、85件、42件)
 「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」(2件、16件、35件)
 「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」(1件、65件、27件)
 「イメージの洞窟 意識の源を探る」(1件、47件、24件)
 「山沢栄子 私の現代」(1件、110件、49件)
 「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」(1件、41件、36件)
 「第12回恵比寿映像祭」(6件、101件、34件)
 「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」(0件、34件、19件)
 「写真とファッション 90年代以降の関係性を探る」(0件、41件、36件)
 「白川義真写真展 永遠の日本/天地創造」(0件、4件、16件)



「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」展より
 NHK 日曜美術館アートシーン(令和元年9月15日放映)



掲載記事「山沢栄子 私の現代」東京新聞 生活面(令和元年12月15日)

b プレス内覧会

展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)
 「TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語」、「宮本隆司 いまだ見えざるところ」(令和元年5月13日、48媒体54名)
 「嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」(令和元年7月22日、39媒体、44名)
 「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」、「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」(令和元年8月13日、34媒体、39名)

「イメージの洞窟 意識の源を探る」(令和元年9月30日、29媒体、33名)

「山沢栄子 私の現代」(令和元年11月11日、36媒体、42名)

「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」(令和元年11月13日、33媒体、39名)

「第12回恵比寿映像祭」(令和2年2月6日、47媒体、64名)

「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」、「写真とファッション」(令和2年3月2日※)

「白川義員写真展 永遠の日本/天地創造」(令和2年3月23日※)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」展プレス内覧会



「しなやかな闘いポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」展プレス内覧会

4 ホームページの運営

公式ホームページ topmuseum.jpでは、動画のコンテンツアップを積極的に行い、作家の人となりや制作風景などを紹介した。さらに、ツイッターなどSNSからアクセスした新しいユーザーに伝えるために、インタビューや関連記事などのweb独自コンテンツを掲載し、展覧会を多角的に紹介することで来館意欲の醸成に寄与した。本年度は新しく各展覧会の概要をPDFデータで中国語(簡体字)、韓国語でも紹介し、海外からの来館者増に貢献した。2019年4月～2020年3月末までのページビュー総数5,348,987PV(最高は2019年8月の606,251PV)で前年比105%であった。

a「写真の起源 英国」

学芸員の英国でのリサーチの様子を映像で紹介し、約1,150回視聴された。

b「宮本隆司 いまだ見えざるところ」

出品作家にインタビュー取材を行い、制作秘話や作品への思いをHPで紹介し、約2200ユーザーが閲覧した。

c「嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」

作家のインタビュー動画や記事をアップするなど、作家の人となりがわかるコンテンツを作成し、作家への関心を醸成した。

d「イメージの洞窟 意識の源を探る」

出品作家2名にインタビュー取材を行い、作品の制作背景や見どころをHPで紹介した。

e「写真とファッション」

展示風景を動画で紹介し、洗練された空間を魅力的にアピールした。

f「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」

学芸員の解説を動画で紹介し、専門的な内容を明るくわかりやすく紹介した。

g「白川義員写真展 天地創造/永遠の日本」

作家インタビューを動画で紹介した。



f 学芸員の解説動画

5 SNSを活かした広報

公式ツイッター @topmuseumを使い、展覧会開催、イベントおよびワークショップ参加者募集などを告知し、公式ホームページ内への誘導を図った。さらにSNSの機能を利用した広報を実施した。主な事例は下記のとおり。

a「写真の起源 英国」

会期中にツイートを21回おこない、初期写真の専門的な豆知識や、作品の鑑賞ポイントなどを、わかりやすく端的に発信した。

b「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」

会期中にツイートを31回おこない、対話型作品鑑賞の視点を取り込んで作品の見どころを図版とともに発信した。

c「嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」

ツイッター企画として「嶋田忠のジャングル撮影記」と題して、鳥の生態を紹介するひとことコラムなどを作品とあわせて、会期中に23回発信した。

d「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」

会期中にツイートを28回行った。インスタグラムを運用し、学芸員インタビュー、作品・作家解説、イベント動画など40回投稿し約17,000回視聴された。

e 「イメージの洞窟 意識の源を探る」

ツイート28回行ったほか、Instagram上での口コミ情報による周知を目的としたプロモーション（期間令和元年11月13日～12月9日）を行い、来館情報を約61万人に配信した。

f 「山沢栄子 私の現代」

作家自身の名言と作品解説等を紹介する広報をツイッター、Instagram、ホームページの3媒体連携で行い、各46回発信した。本展会期中にInstagram公式アカウント（topmuseum）のフォロワー数が約800フォロワー増加した。

g 「写真とファッション」

ホームページへの動画掲載と連動して、ツイート、Instagramで会場風景を動画配信した。

h 「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」

ホームページへの動画掲載と連動して、学芸員による作品解説、展覧会のみどころをツイッターで紹介した。

6 広告出稿

a 「TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語」

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（8月12～18日）

b 「宮本隆司 いまだ見えざるところ」

朝日新聞夕刊 アート面（5月14日）5段1/2（約120万部）
しおり型DM 2万部作成、都内大型書店33店舗に設置
『FLYING POSTMAN PRESS』6月号（全国約51万部発行）表紙、カラー

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（5月13日-19日）

c 「嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」

読売新聞 5段カラー（7月24日）5,609,877部
読売新聞 社会面突き出しカラー×2枠（7月25日）5,609,877部
朝日新聞 朝日新聞夕刊 アート面（7月23日）5段1/2 約120万部

毎日こども新聞 2019年なつ号（7月上旬）記事下3段カラー 約49万部（都内小学校1137校）

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（7月22日-28日）

d 「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（8月12日-18日）

e 「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」

東京メトロ『沿線だより』9月号 パブ枠 展覧会割引提供 100,000部179駅配布、B1全ポスター（179駅掲出、1日742万人、2017年度実績）

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（8月12日-18日）

京王線・京王井の頭線 渋谷、新宿ほか「クアトロボード」（8月5日-10月13日）

f 「イメージの洞窟 意識の源を探る」

朝日新聞朝刊 アート面展覧会企画モノクロ 5段1/2（10月5日）約320万部

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（9月30日-10月6日）

山手線まど上チャンネル スポット枠（10月7日-13日）

JR ADビジョン（構内柱サイネージ）大宮、東京、横浜ほか20駅（9月30日-10月6日）

g 「山沢栄子 私の現代」

Instagram ターゲティング広告（11月12日-12月1日）東京・千葉・神奈川・群馬に在住の16歳～39歳男女、表示回数1,576,986回

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（11月11日-17日）

山手線まど上チャンネル スポット枠（11月18日-24日）

h 「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」

東京新聞 朝刊「ほっとなび」面記事下5段カラー（11月28日、12月12日）484,440部

東京新聞 朝刊夜景・イルミネーション企画 告知バナー（12月3日）484,440部

山手線・東武東上線 まど上サイネージ（12月2日-8日）

東京メトロ MCV（柱サイネージ広告）表参道単駅ジャック（1月6日-12日）

京王線・京王井の頭線 「クアトロボード」（12月2日-12月29日）渋谷駅ほか

i 「年末年始広告」

読売新聞 朝刊東京セット版 5段1/4モノクロ（12月31日）約460万部発行

朝日新聞 朝刊東京セット版 5段1/4モノクロ（12月31日）約300万部発行

j 「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」

東京メトロ『沿線だより』3月号 パブ枠 展覧会割引提供 100,000部 179駅配布 B1全ポスター（179駅掲出、1日あたりの利用者742万人、2017年度実績）



広告掲載「嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」
毎日こども新聞 2019年 なつ号 記事下3段カラー



「山沢栄子 私の現代」
Instagram広告



「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」表参道駅

7 インバウンド広報

a 「多言語パンフレット」

今年度の展覧会情報を英語、韓国語、中国語（繁体字）の3言語で紹介したパンフレットを作成・配架した。

発行部数：各 15,000部

b 「トリップアドバイザー」

①モバイル向け画像つきテキスト広告（1種）、バナー広告（2種）、PC向けバナー広告（2種）、8月1日-10月14日、東京を訪問・在住の外国人（英語、簡体字、韓国語使用者）、保証表示回数1,039,377回

②モバイル向け画像つきテキスト広告（1種）、バナー広告（2種）、PC向けバナー広告（2種）、11月12日-1月26日、東京を訪問・在住の外国人（英語、簡体字、繁体字使用者）、保証表示回数1,125,973回

③モバイル向け画像つきテキスト広告（1種）、バナー広告（2種）、PC向けバナー広告（4種）、2月25日-3月31日、東京を訪問・在住の外国人（英語、繁体字、韓国語使用者）、保証表示回数1,571,878回

c 「WeChat」配信

年間を通じて中国の有カアプリ「WeChat」に展覧会情報を中国語で紹介した（更新頻度は平均月2回、取材を含む）

d 「来館案内掲出」

①恵比寿スカイウォーク出口 電飾コルトン広告（1月15日-3月31日）

②恵比寿ガーデンプレイス内 三越前 三連ショーウィンドウ（1月15日-）



多言語パンフレット



恵比寿三越前 三連ショーウィンドウ

8 屋外掲出（年間契約、有料）

a 恵比寿ガーデンプレイス周辺広告

- ①「スカイウォーク電飾看板」
- ②「B1ポスター掲示」

b 東京都写真美術館ディスプレイシート

- ①東京都写真美術館 外壁 巨大写真
- ②懸垂幕



スカイウォーク電飾看板



YGPエリア内ポスター掲示



懸垂幕



巨大写真

9 記者懇談会の実施

a 平成31年度 記者懇談会

開催日：令和元年10月29日（火）

出席者数：18媒体、20名

〈主なプログラム〉

【第1部】東京都写真美術館 1階スタジオ

- ・令和元年度 展覧会予定について
- ・第12回恵比寿映像祭のテーマについて
- ・教育普及事業「色と形と言葉のゲーム」について
- ・保存科学の研究成果について
- ・質疑応答

【第2部】大会議室

- ・伊東館長、館職員との懇談会

b 平成31年度 記者ブリーフィング

開催日：令和2年2月14日（金）

出席者数：15名

〈主なプログラム〉

- ・令和2年度 東京都写真美術館の活動概要、全展覧会の紹介
- ・質疑応答



第1回記者懇談会風景／収蔵作品実見風景
記者ブリーフィング風景

10 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」 vol.100～vol.111

発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、猫漫画「クレムリン」（カレー沢薫、講談社）とコラボレーションした「nya-eyes」（ニアイズ）を発行した。



「ニアイズ」vol.103、vol.107

11 「にぎわいのある美術館づくり」としての取り組み・連携事業

a 「TOPに行こうキャンペーンVOL.3」

・「年間パスポート」を提示・購入の方に単行本『ニアイズ 2』をプレゼント

・ミュージアム・ショップで税込1,000円以上お買い上げの方、または開催中の展覧会を観覧した方に「ニアイズくじ」で『ニアイズ 2』等をプレゼント

実施期間：5月14日-31日

『ニアイズ 2』配布数 計654冊

b 「TOPスタンプラリー2019」

館内回遊率を向上させるためにスタンプラリーを実施した。3展示を鑑賞した方には、オリジナルふせん、5展示を鑑賞した方には、単行本『ニアイズ』をプレゼントした。

会期 8月14日-11月24日

・スタンプカード配布数 32,000枚

・参加者数 3展示4,733人／5展示380人 ※のべ14,959回の展覧会入場にあたる



スタンプカード



TOPオリジナルふせん

c サマーナイトミュージアム

「サマーナイトミュージアム2019」および体験型ラリー「東京メトロ×国立・都立ミュージアム ミステリーラリー2019」に参加した。同期間中に館内でのミニコンサート「MUSEUM×MUSIC」を東京藝術劇場と共催するなど、多彩な企画で夏季延長開館をアピールした。

①「サマーナイトミュージアム2019」

会期 7月18日-8月30日の木・金曜日17:00～21:00

・担当学芸員によるギャラリートーク(手話通訳付きギャラリートーク含む)

7月18、19、25、26日、8月1、2日「TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語」

8月30日「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」

・アーティスト・トーク

8月2日、16日「嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」

・対話型作品鑑賞会

8月23日「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」

・ミニコンサート「MUSEUM×MUSIC」(企画制作:東京芸術劇場)

8月2日(金) フルート・クラリネット二重奏

8月9日(金) サックス二重奏

・来場特典

入場料割引(17:00以降の入場で、学生無料および一般・65歳以上は団体料金適用)。ミュージアム・ショップで商品を購入したお客様一人様につき、1つミニプレゼント。カフェで500円(税抜)以上ご利用した方に、コーヒー又は紅茶を1杯分を提供

②「東京メトロ×国立・都立ミュージアム ミステリーラリー2019」

屋外の巨大写真や「嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」展がクイズの題材として取り上げられた。

会期 7月18日(木)-8月30日(金)

参加施設

東京都写真美術館、東京都江戸東京博物館、東京都現代美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館、東京国立近代美術館、国立新美術館、国立西洋美術館



担当学芸員によるギャラリートーク(手話通訳付き) 風景



「サマーナイトミュージアム2019」チラシ



「ミステリーラリー2019」冊子

d お正月開館

1月2日、3日には「トップのお正月」として新春を祝い、2階・3階展示室の無料開館(一部展覧会・上映を除く)にあわせ、各日先着100名に「東京都写真美術館オリジナル消しゴム」を提供した。カフェではパンの福袋(30個)を、ショップでは写真集等の福袋(30個)を提供した。また、担当学芸員によるギャラリートークや、1月4日、5日は橘雅友会による雅楽演奏「とっぶ雅楽」(計4公演)を開催し、館内は多くのお客様で賑わった。

・「とっぶ雅楽」(各日13時/15時)

1月4日 計127名(62/65名)

1月5日 計122名(49/73名)

・担当学芸員によるギャラリートーク

1月3日 67名(「山沢栄子 私の現代」)

1月4日 48名(「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」)

1月5日 35名(「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」)



お正月開館の様子



12 地域との広報連携

a 「相互割引提携」

「山沢栄子 私の現代」展会期中、関連性の高い写真展として「永遠のソール・ライター」展(Bunkamura ザ・ミュージアム)と相互割引サービス「NY割」とチラシバーターを実施し、お客様の回遊を狙った。

b 「展覧会関連企画および広報展開」

「写真とファッション」展にあわせて、「BEAMS JAPAN」(新宿)、「People」(恵比寿)で本展関連サテライト展示を開催した。また、代官山T-site(代官山)、「蔦屋書店」(銀座)をはじめ、都内書店で関連書籍の販促企画と連動した広報展開を行った。



「代官山T-SITE」の様子

c 「恵比寿ガーデンプレイス(YGP)との広報展開」

① オフィスワーカー割引

YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの観覧割引サービスと、当館チケットをお持ちの方へのYGP内店舗

でのサービス提供を行った。



「チケ得」チラシ

② 恵比寿ガーデンプレイス25周年企画

2019年に開業25周年を迎えた恵比寿ガーデンプレイスによる告知キャンペーンで、「宮本隆司 いまだ知られざるところ」と当館施設情報が、山手線「JRトレインチャンネル」に紹介された。